ESET Endpoint Protection シリーズ

クライアント管理　クラウド対応オプション Lite（7.0）

利用手順書

第 2 版

2020 年 11 月

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

目次

1. はじめに

○ 本書は、法人向けサーバー・クライアント用製品「ESET クライアント管理 クラウド対応オプション Lite(以下、クラウドオプション Lite)」をご利用になるお客さま向けの手順書となります。

○ 本書は、本書作成時のソフトウェア及びハードウェアの情報に基づき作成されています。ソフトウェアのバージョンアップなどにより、記載内容とソフトウェアに搭載されている機能及び名称が異なっている場合があります。また本書の内容は、将来予告なく変更することがあります。

○ 本書内の画面イメージは、Windows10 をベースにして作成しております。そのため、OS によっては記載内容と名称が異なっている場合がございます。

○ 本書内の画面イメージは、ESET Endpoint Security V7 を使用しています。他のプログラムでも導入の流れに違いはございません。各プログラムのインストールおよび、アンインストール手順に関しましては、弊社ユーザーズサイトで公開しています、各プログラムのユーザーズマニュアルを参照ください。

2. 必要な作業について

ESET クライアント管理 クラウドオプション Lite をご利用いただくにあたり、必要な作業は以下の通りです。クラウドオプション Lite のご利用の際には、必ず「3.事前準備」をご確認いただき、導入作業の流れ、必要な情報を確認の上、導入作業を進めるようにしてください。

3.事前準備（P.5）

↓

ESET クライアント管理 クラウド対応オプション Lite のご利用に際し、以下の作業を行います。
- 3.1.動作環境・接続環境の確認
- 3.2.管理可能なプログラムの確認
- 3.3.注意事項,および禁止事項について
- 3.4.使用できない機能、及び機能制限について
- 3.5.既に ESET 製品をご利用いただいている場合の移行方法の確認
- 3.6.ライセンス情報の確認、ログイン情報の準備

4.既存ウイルス対策ソフトのアンインストール【クライアント側作業】(P.14)

↓

現在インストールされているウイルス対策ソフトをアンインストールします。
すでに ESET 製品をご利用の場合は、以下の作業を参照し、クラウドオプション Lite でクライアント管理を実施します。

5.クライアント端末への展開【管理サーバー側作業】【クライアント側作業】(P.15)

↓

クラウドオプション Lite で管理するために、各 OS に応じて以下の導入方法を参照し、クライアント展開を実施してください。
- A）Windows 端末への展開 （P.15）
- B）Mac、Linux 端末への展開（P.49）

6. クラウドオプション Lite で管理できていることを確認【管理サーバー側作業】(P.58)

↓

「5.クライアント端末への展開」を実施したら、実際にクラウドオプション Lite の管理画面でクライアントの管理ができていることを確認します。

完了

3. 事前準備

3.1. 動作環境・接続環境の確認

クラウドオプション Lite をご利用になる前に、下記 Web ページにて動作環境をご確認いただき、利用可能な環境をご用意ください。

■ESET Endpoint Protection Advanced　動作環境
https://eset-info.canon-its.jp/business/endpoint_protection_adv/spec.html

■ESET Endpoint Protection Standard　動作環境
https://eset-info.canon-its.jp/business/endpoint_protection_std/spec.html

3.2. 管理可能なプログラムの確認

クラウドオプション Lite では、クライアント管理用プログラム「ESET Security Management Center（ESMC)」をクラウド上にご用意して提供させていただきます。

クラウドオプション Lite で管理できる、法人向けサーバー・クライアント用製品のプログラムは以下となります。(2019 年 3 月時点)
対象プログラムとバージョンをご確認のうえ、ご使用ください。

Windows		Mac		Linux	Android	Windows		Linux
EES/EEA ※1		EAVM ※2	EES/EEA ※3	EAVL ※4	EESA ※5	EFSW ※6		EFSL ※7
V6.X	V7.X	V4.1	V6.X	V4	V2.X	V6.X	V7.X	V4.5
○	○	○	○	○	×	○	○	○

※クラウドオプション Lite では、モバイルデバイスの管理はできません。

※1　EES＝ESET Endpoint Security / EEA=ESET Endpoint アンチウイルス

※2　EAVM=ESET NOD32 アンチウイルス for Mac

※3　EES=ESET Endpoint Security for OS X / EEA=ESET Endpoint アンチウイルス for OS X

※4　EAVL=ESET NOD32 アンチウイルス for Linux Desktop

※5　EESA=ESET Endpoint Security for Android

※6　EFSW=ESET File Security for Microsoft Windows Server

※7　EFSL=ESET File Security for Linux

3.3. 注意事項、および禁止事項について

クラウドオプション Lite をご利用いただくうえでの注意事項、および禁止事項がございます。必ず下記をご確認のうえ、ご利用ください。

【注意事項】

① クラウドオプション Lite で使用する通信ポートについて

クライアント用プログラムを管理するには、クライアント用プログラム および管理画面端末から、クラウド上管理サーバーESET Security Management Center の以下のポート（ESMC）へ通信できる必要があります。

・2222/TCP　：　ESET Management エージェント（EM エージェント）が ESMC と通信する際に利用
・443/TCP　：　ESMC が管理画面利用端末からの Web コンソールアクセスを受ける際に利用
・80/TCP　：　検出エンジンのアップデート用サーバーがクライアント用プログラムからのアクセスを受ける際に利用
・443/TCP

【HTTP プロキシ経由する場合】
HTTP プロキシ経由で ESMC に EM エージェントを接続する場合は、以下の条件を満たす必要がありますので、ご注意ください。

・HTTP プロキシが ESMC で利用する TLS/SSL 通信（2222/TCP）を転送できること
・HTTP CONNECT メソッドをサポートしている
・プロキシ認証を必要としないこと（ユーザー名/パスワード設定不可）
・プロキシサーバーから、上記ポートへ通信できること

② ウェイクアップコール（ESMC とクライアントの即時通信）について

ESMC は ESET Push Notification Service（EPNS）を利用して EM エージェントにウェイクアップコールを送信し、即時通信することが可能です。
ウェイクアップコールを利用する場合は、以下の条件を満たす必要があります。

・EM エージェントが EPNS サーバーへ、8883/MQTT で直接接続できること

接続詳細	
転送セキュリティ	SSL
プロトコル	MQTT（コンピューター間接続プロトコル）
ポート	8883
EPNS サーバーのホストアドレス	epns.eset.com

※　HTTP プロキシを経由することはできません。

③ **既定のグループのグループ名変更について**
クラウドオプション Lite の ESMC では、お客さま用に既定のグループを一つ用意しております。
既定グループのグループ名は、変更しないでください。

④ **バックアップ及びメンテナンスについて**
クラウドオプション Lite サーバー全体のバックアップを毎日 AM2 時～AM4 時で取得します。バックアップ取得中の数分間、ESMC が停止します。
この間にタスクを設定するとタスクが実行されない場合がありますので、本時間内にタスクのスケジュールの指定は行わないようにしてください。
また、クラウドオプション Lite は複数のお客様との共用サーバーのため、お客様環境ごとのバックアップは実施しておりません。

⑤ **ESMC 上のログ保存について**
ESMC が取得するクライアント PC からの各種ログデータについては、6 ヶ月間保存します。また、保存期間を変更することはできません。

【禁止事項】

① **ESET Management エージェントの接続間隔について**
クラウドオプション Lite の ESMC とクライアント（EM エージェント）の接続間隔は既定で「20 分」に設定されており、変更することはできません。

② **レポートファイルの過度なダウンロードについて**
レポートファイルをダウンロードする場合、一日に合計 30MB 以上のダウンロードは実施しないでください。

3.4. 使用できない機能、及び機能制限について

クラウドオプション Lite では下記機能がご使用いただけませんのでご注意ください。

	機能名	詳細	設定場所
1	レポートの電子メールによる送信	レポートを電子メールで送信する機能	[詳細] -[サーバータスク] -[レポートの作成]
2	通知	SNMP トラップサービスや Syslog への送信、電子メールにより、管理者へメール通史する機能	[通知]
3	エージェント展開	EM エージェントをリモートで展開する機能	[詳細] -[サーバータスク] -[レポートの作成]
4	静的グループの同期	AD/VMware/LDAP と連携して、 管理サーバー上に静的グループを自動で作成する機能	[詳細] -[サーバータスク] -[静的グループの同期]
5	ユーザー作成	管理サーバーにログインするための ログインアカウント作成機能（アクセス権の設定）	[詳細]-[ユーザー作成] [詳細]-[権限設定]
6	モバイルデバイスの管理	モバイルデバイス（Android、iOS）を追加・管理する機能	-
7	EM エージェントのローカル展開	EM エージェントのインストーラーを用いて EM エージェントをインストール	-
8	ピア証明書の作成	ピア証明書と認証局を作成する機能	[詳細]-[ピア証明書] [詳細]-[認証局]
9	ライセンスの追加	新規にライセンスを追加する機能	[詳細] -[ライセンス管理]
10	監査ログ	監査ログの作成と閲覧機能	[レポート]-[監査ログ]
11	ユーザー同期	AD と連携しユーザー情報を同期する機能	[詳細] -[サーバータスク] -[ユーザー同期]
12	レポートの作成	サーバータスク機能を利用してレポートをサーバー上に作成する機能	[詳細] -[サーバータスク] -[レポートの作成]
13	サーバー設定	管理サーバーの設定変更	[管理]-[サーバ設定]
14	Rogue Detection sensor を利用したコンピュータ追加	Rogue Detection sensor コンポーネントをインストールし、コンピュータを追加する機能	-

■ クラウドオプション Lite での機能制限について

クラウドオプション Lite では、下記機能をご利用いただくことはできますが、既定で
テンプレートが用意されておりません。
ご利用になる場合は、下記を参考にお客さまご自身で作成ください。

	機能名	参考
1	ポリシー	ESET Security Management Center ユーザーズマニュアルより「8.10　ポリシー」
2	動的グループ（※）	ESET Security Management Center ユーザーズマニュアルより「8.14.1.8　動的グループ」

※　動的グループとは、指定した条件（OS など）に合わせて、管理しているコンピューターをリアルタイムに自動でグループ分けするグループ機能です。

3.5. 既に ESET 製品をご利用いただいている場合の移行方法の確認

ご使用されている環境により移行方法が異なります。下記をご確認ください。

(1)個人向け製品を使用

個人向け製品のプログラムはクラウドオプション Lite で管理することができません。
法人向けサーバー・クライアント用製品のプログラムに入れ替える必要があります。

⇒「3.事前準備」で作業の流れ、必要な情報を確認後、「4.既存のウイルス対策ソフトのアンインストール【クライアント端末側作業】」以降の作業を実施してください。

(2) 既に法人向けサーバー・クライアント用製品プログラムを使用。クライアント管理は未実施。

ご利用の法人向けサーバー・クライアント用製品プログラムが、クラウドオプション Lite で管理可能なプログラムの場合、EM エージェントを導入することで、クラウドオプション Lite でクライアント管理を行うことができます。

⇒「3.事前準備」で作業の流れ、必要な情報を確認後「5.クライアント端末への展開」にて、【既存お客様向け】の手順を参照し、クライアント管理を実施してください。

(3) 既に法人向けサーバー・クライアント用製品プログラムを使用。ERA V6または、ESMCV7（オンプレミス）で管理を実施

クライアントの管理を社内にオンプレミスで構築したERA V6またはESMC V7からクラウドオプションLiteに変更する場合には、現在インストール済みのERAエージェントまたはEMエージェントをアンインストールし、新たにクラウドオプションLite用のEMエージェントをインストールすることで、クラウドオプションLiteで提供している管理サーバー（ESMC）に管理を変更することができます。

⇒コントロールパネルのプログラムと機能より「ESET Remote Administrator Agent」または「ESET Security Management Agent」のアンインストールを実施後、「5.クライアント端末への展開」より【既存お客様向け】の手順を参照し、クライアント管理を実施してください。
クライアントプログラムについても、最新バージョンへのバージョンアップをご検討ください。

(4) 既に法人向けサーバー・クライアント用製品プログラムを使用。クラウドオプション（ERA V6.5）で管理を実施

すでにクラウドオプションLiteのERA V6.5をご利用で、ESMC V7にバージョンアップされた場合には、現在インストール済みのERAエージェントをESMC用エージェント「EMエージェント」にバージョンアップする必要があります。

⇒ESMCのタスク機能を利用し、バージョンアップが可能です。
ユーザーズマニュアルよりダウンロード可能な「ESET Security Management Center ユーザーズマニュアル」より「4.1 コンポーネントアップグレードタスク」を実施してください。
※本タスクを実行すると、各クライアントからのネットワーク負荷がかかるため台数や時間を分けるなど、実行タイミングを分散することを推奨します。

現在ご利用中のクライアントプログラムのバージョン確認方法
ESET 製品をご利用の端末で、クライアント端末にインストールされている ESET 製品のバージョンがご不明の場合は、下記 Web ページよりご確認ください。

【プログラムのバージョンの確認方法】
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/140?site_domain=business

3.6. ライセンス情報・ログイン情報の準備

クラウドオプション Lite を利用するにあたり以下 2 種類の情報が必要です。お手元にご用意ください。

(1)ESET ライセンス製品 ライセンス情報

「ESET ライセンス製品」をお申し込みいただいたお客様にメールで、「ESET セキュリティ ソフトウェアシリーズ用 ユーザーズサイト ログイン情報のご案内」をお送りしておりますのでご参照ください。

- シリアル番号
- ユーザー名

(2)クラウド対応オプション Lite ログイン情報

「ESET クライアント管理 クラウド対応オプション Lite」をお申込みいただいたお客様へ、ユーザーズサイトの「ライセンス情報」に下記情報を記載しておりますので、ご参照ください。

- Web コンソール（管理画面）ログイン用 URL ※下記ユーザーズサイトに記載
- ESMC サーバー/ERA サーバーの IP アドレス ※下記ユーザーズサイトに記載
- ログイン名 ※下記ユーザーズサイトに記載
- 初回ログインパスワード ※下記ユーザーズサイトに記載
- 証明書パスフレーズ ※下記ユーザーズサイトに記載

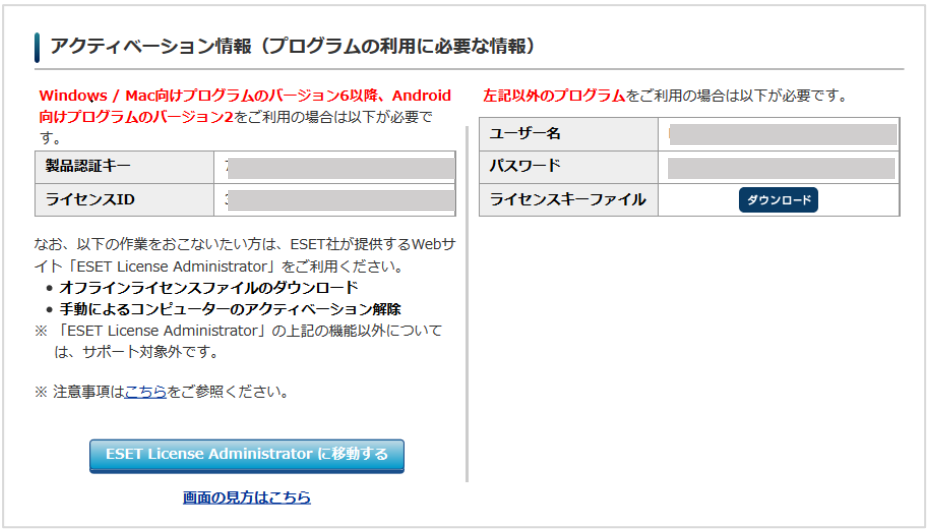
下記弊社ユーザーズサイトにて、ライセンス情報や各種プログラム、マニュアルを公開しております。
ライセンス情報やプログラムの各種設定につきましては、ユーザーズサイトをご参照ください。

■ **ESET Endpoint Protection シリーズ ユーザーズサイト**
https://canon-its.jp/product/eset/users/
※ログイン時に「シリアル番号」、「ユーザー名」が必要です。

1. ユーザーズサイトログイン後、「ライセンス情報/申込書作成」をクリックしてください。
※ マニュアルについては、「プログラム/マニュアル」タブよりダウンロードすることができます。

2. クラウドオプション Lite のライセンス情報、またはログイン情報は、以下をご参照ください。

ア)ESET ライセンス製品 ライセンス情報



アクティベーション情報（プログラムの利用に必要な情報）

Windows / Mac向けプログラムのバージョン6以降、Android向けプログラムのバージョン2をご利用の場合は以下が必要です。

製品認証キー	
ライセンスID	

左記以外のプログラムをご利用の場合は以下が必要です。

ユーザー名	
パスワード	
ライセンスキーファイル	ダウンロード

なお、以下の作業をおこないたい方は、ESET社が提供するWebサイト「ESET License Administrator」をご利用ください。
- オフラインライセンスファイルのダウンロード
- 手動によるコンピューターのアクティベーション解除

※ 「ESET License Administrator」の上記の機能以外については、サポート対象外です。

※ 注意事項はこちらをご参照ください。

ESET License Administrator に移動する

画面の見方はこちら

イ)クラウド対応オプション　ログイン情報

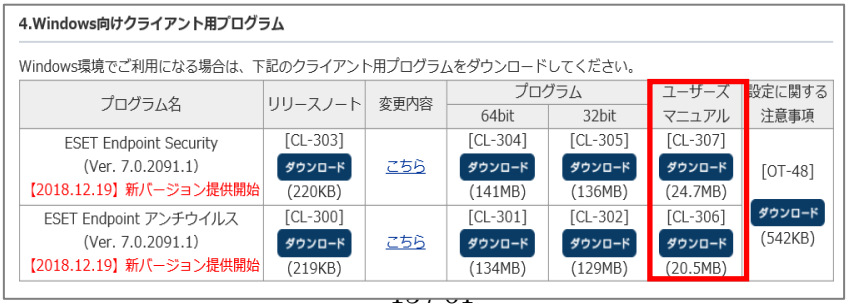
ESETクライアント管理 クラウド対応オプション Lite ご利用情報

Webコンソールのご利用時や、クライアント端末とクラウド上のクライアント管理用プログラムの接続などに、以下の情報が必要です。

製品名	ESETクライアント管理 クラウド対応オプション Lite 6-24ユーザー用
Webコンソール（管理画面）ログイン用URL	https://[redacted]/era/webconsole
ESMC サーバー/ERA サーバーのIPアドレス	[redacted]
ログイン名	[redacted]
初回ログインパスワード（※）	[redacted]
証明書パスフレーズ	[redacted]
契約終了日	2021年7月20日

(※) ログインパスワードは初回ログイン後に変更してください。変更後のログインパスワードはお客さまご自身で大切に保管してください。

【参考】
ユーザーズサイト「プログラム/マニュアル」より、「最新バージョンをダウンロード」または「プログラム一覧からダウンロード」を選択すると、以下のようなダウンロードページが表示され、各種プログラムやマニュアルのダウンロードが可能です。



4.Windows向けクライアント用プログラム

Windows環境でご利用になる場合は、下記のクライアント用プログラムをダウンロードしてください。

プログラム名	リリースノート	変更内容	プログラム 64bit	プログラム 32bit	ユーザーズマニュアル	設定に関する注意事項
ESET Endpoint Security (Ver. 7.0.2091.1) 【2018.12.19】新バージョン提供開始	[CL-303] ダウンロード (220KB)	こちら	[CL-304] ダウンロード (141MB)	[CL-305] ダウンロード (136MB)	[CL-307] ダウンロード (24.7MB)	[OT-48]
ESET Endpoint アンチウイルス (Ver. 7.0.2091.1) 【2018.12.19】新バージョン提供開始	[CL-300] ダウンロード (219KB)	こちら	[CL-301] ダウンロード (134MB)	[CL-302] ダウンロード (129MB)	[CL-306] ダウンロード (20.5MB)	ダウンロード (542KB)

4. 既存ウイルス対策ソフトのアンインストール【クライアント側作業】

クライアント端末に他社製のウイルス対策ソフトがインストールされている場合は、アンインストールする必要があります。

他社製ウイルス対策ソフトをご利用のお客さまは「**他社製ウイルス対策ソフトのアンインストール**」、に進んでください。

現在、クライアント端末にウイルス対策ソフトがインストールされていない場合は、「**5.オールインワンインストーラーの作成【管理サーバー側作業】**」に進んでください。

・他社製ウイルス対策ソフトのアンインストール

現在、他社製ウイルス対策ソフトをインストールしている端末で、ESET 製品を導入する場合は、必ず他社製ウイルス対策ソフトをアンインストールしてください。
複数のウイルス対策ソフトの併用は、パフォーマンスの低下やトラブルの原因となります。

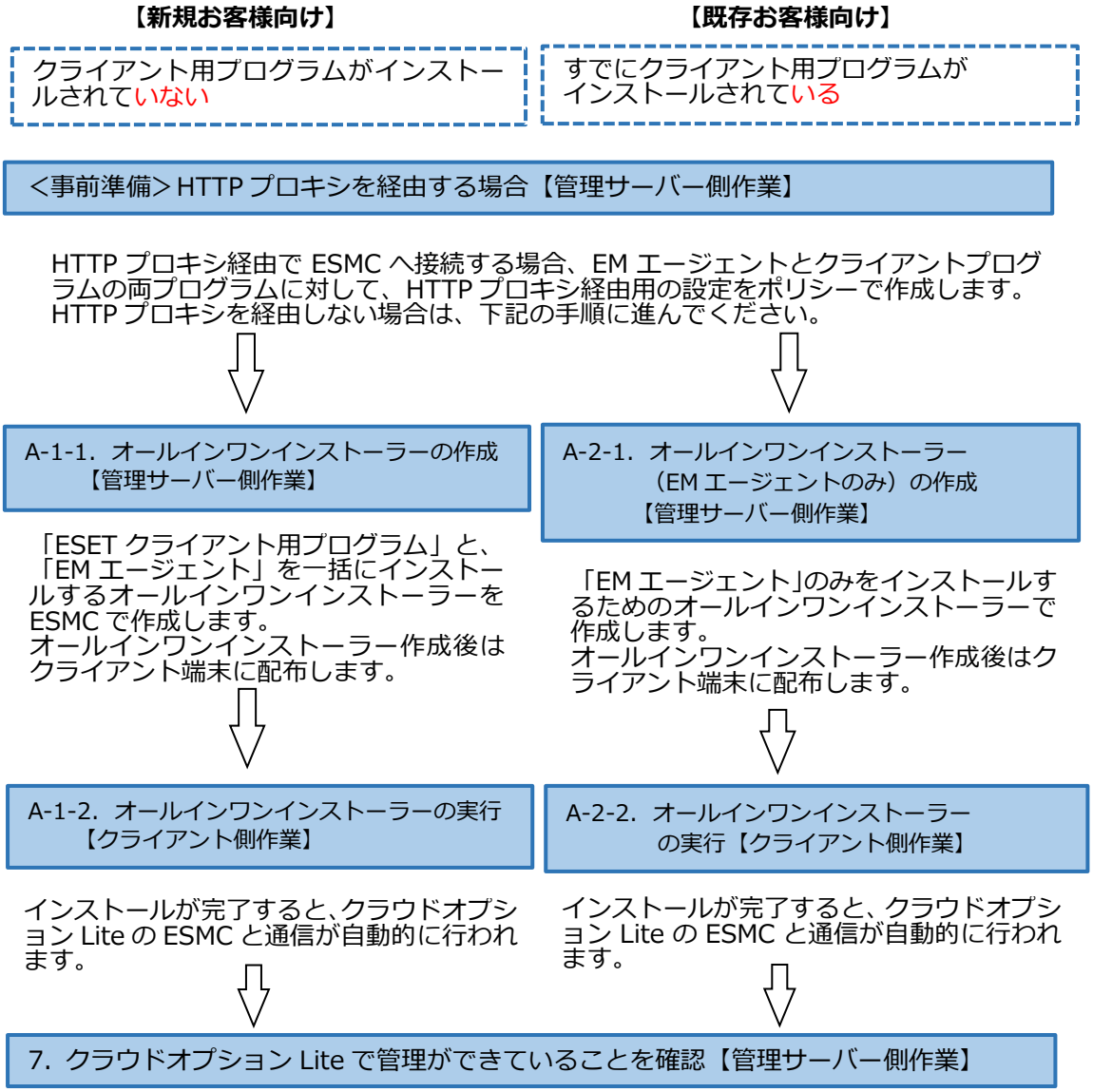
他社製ウイルス対策ソフトのアンインストール後は、本資料「**5.クライアント端末への展開【管理サーバー側作業】【クライアント端末側作業】**」へ進んでください。

他社製ウイルス対策ソフトのアンインストール方法がご不明の場合は、
下記の WEB ページをご参照ください。
【他社製ウイルス対策ソフトのアンインストールについて】
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/81?site_domain=business

5. クライアント端末への展開【管理サーバー側作業】【クライアント側作業】

クラウドオプション Lite でクライアント管理を行う手順について、【新規お客様向け】また【既存お客様向け】に以下 2 通りの手順を記載しております。
ご利用状況に応じて、以下を参考にクラウドオプション Lite での管理を開始してください。
Mac、Linux 端末への導入については、「B) Mac、Linux 端末への展開」をご確認ください。

A）Windows 端末への展開



＜事前準備＞HTTP プロキシを経由する場合【管理サーバー側作業】

各クライアントが HTTP プロキシを経由してクラウドオプションの ESMC に接続する場合は、事前に EM エージェントとクライアントプログラムの両プログラムに対して、HTTP プロキシ経由用の設定をポリシーで作成します。

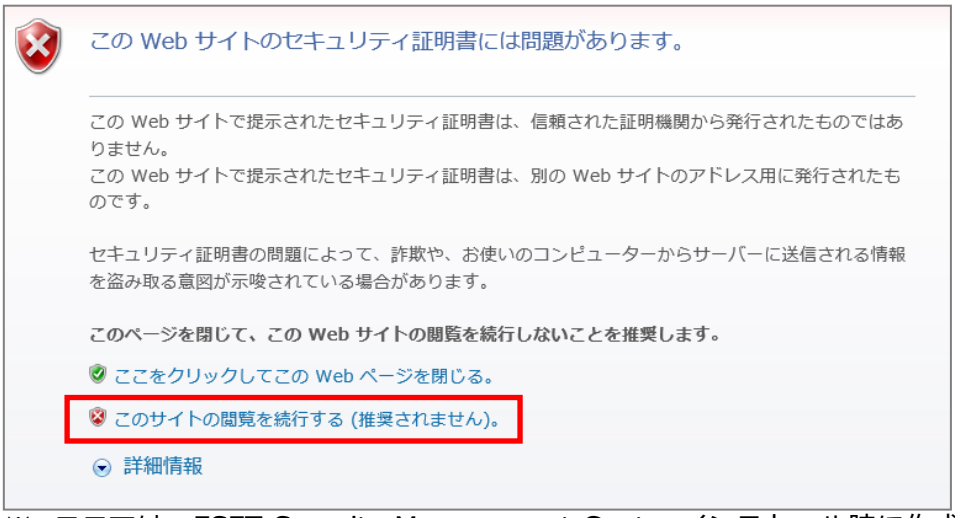
HTTP プロキシを経由しない場合は、新規または既存お客様向け手順に応じて、オールインワンインストーラー作成に進んでください。

以下に、各プログラムのポリシー作成手順を記載します。

【EM エージェント向け、HTTP プロキシ経由ポリシー作成方法】

1. Web ブラウザより、「**3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備**」で確認した「Web コンソール（管理画面）ログイン用 URL」にアクセスします。

   以下の画面が表示されますので、「このサイトの閲覧を続行する（推奨されません）。」をクリックします。

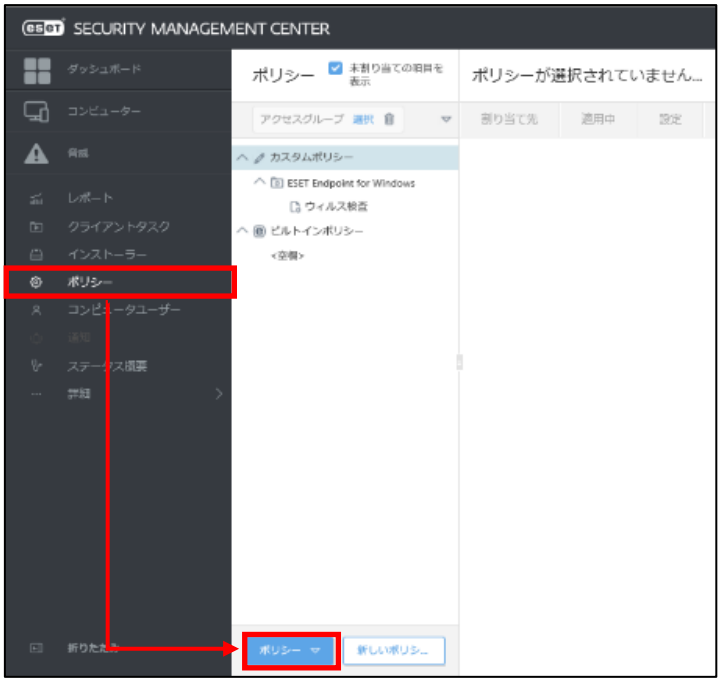


※ ここでは、ESET Security Management Center インストール時に作成したセキュリティ証明書を利用しているため、管理画面アクセス時に上記の注意画面が表示されます。

※ お使いのブラウザより、表示内容が異なります。

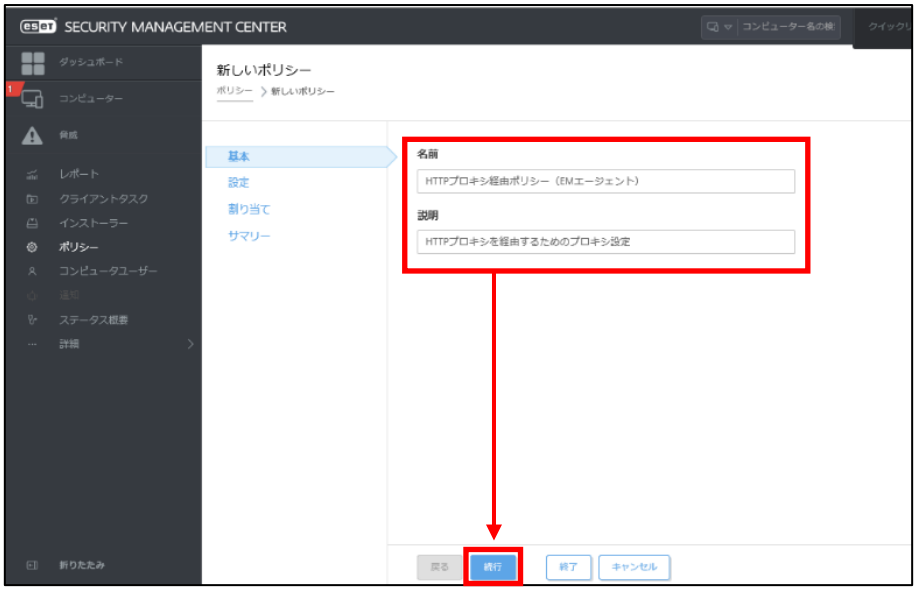
2. 「**3.6.ライセンス情報･ログイン情報の準備**」で確認した①「ESMC ログイン名」、②「ESMC ログインパスワード」を入力し、③「日本語」を選択して、④「ログイン」をクリックします。
   ※ 初回ログイン時、また、パスワード有効期限が切れた場合は、画面の指示に従ってパスワード変更を行ってください。また、左下の「パスワード変更」から変更することも可能です。

3. 「ポリシー」→「新しいポリシー」をクリックします。



4. 以下を参考に入力し、「続行」をクリックします。

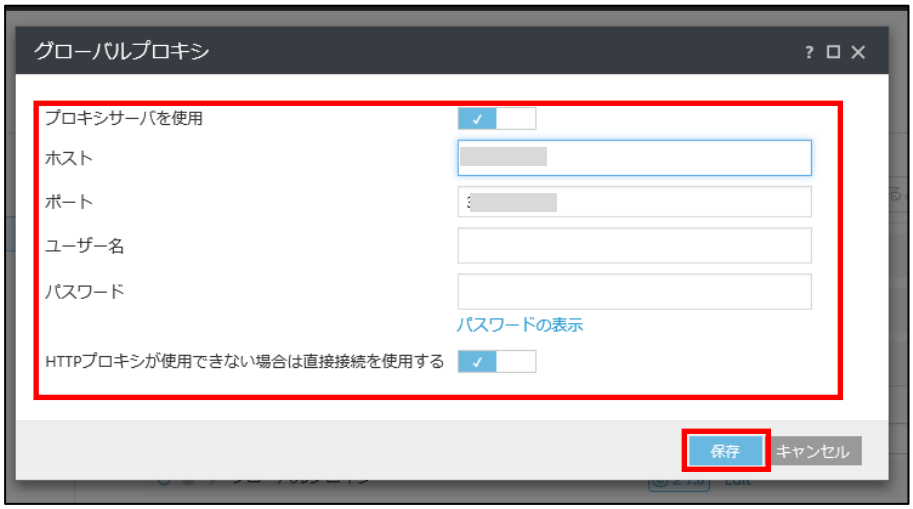
名前	HTTP プロキシ経由ポリシー（EM エージェント）
説明（任意）	HTTP プロキシを経由するためのプロキシ設定



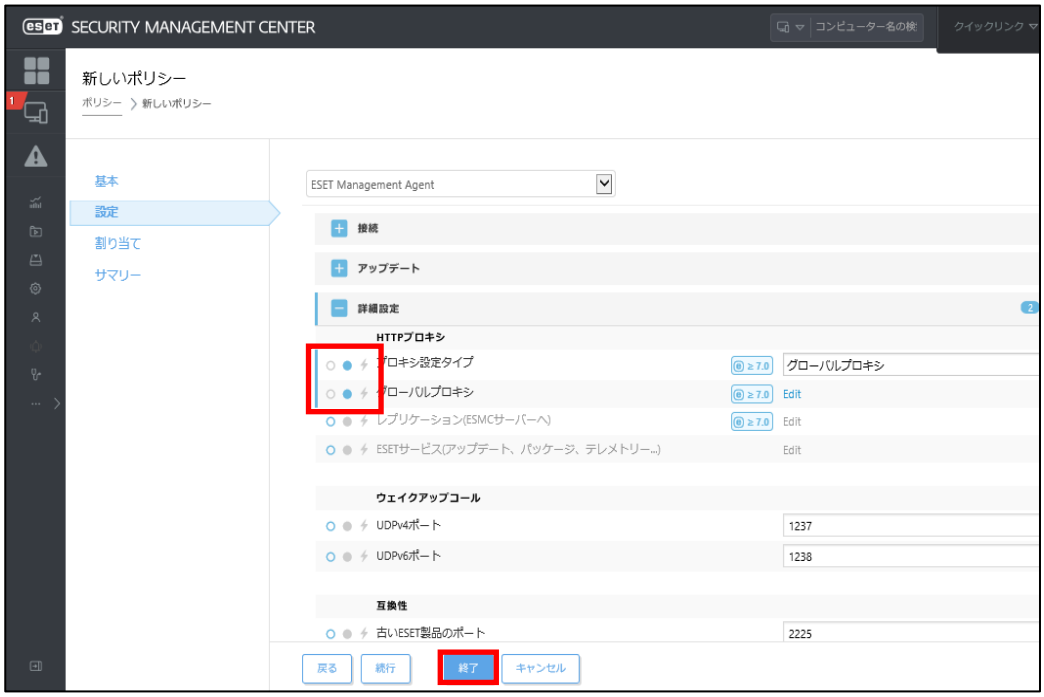
5. 「ESET Management Agent」を選択し、「詳細設定」を展開します。
プロキシ設定タイプにて、「グローバルプロキシ」が選択されていることを確認し、
左側アイコンで真ん中の「●」を選択します。
グローバルプロキシの「Edit」をクリックします。

6. 以下の通り入力し、「保存」をクリックします。

プロキシサーバを使用	**有効**にする
ホスト	HTTP プロキシサーバーのホスト名または IP アドレス
ポート	HTTP プロキシサーバーのポート番号
ユーザー名	プロキシ認証に対応していないため設定不可
パスワード	
HTTP プロキシが使用できない場合は直接接続を使用する	接続する場合は有効にする



7. 「プロキシ設定タイプ」と「グローバルプロキシ」のアイコンが、真ん中の「●」であることを確認し、「終了」をクリックします。

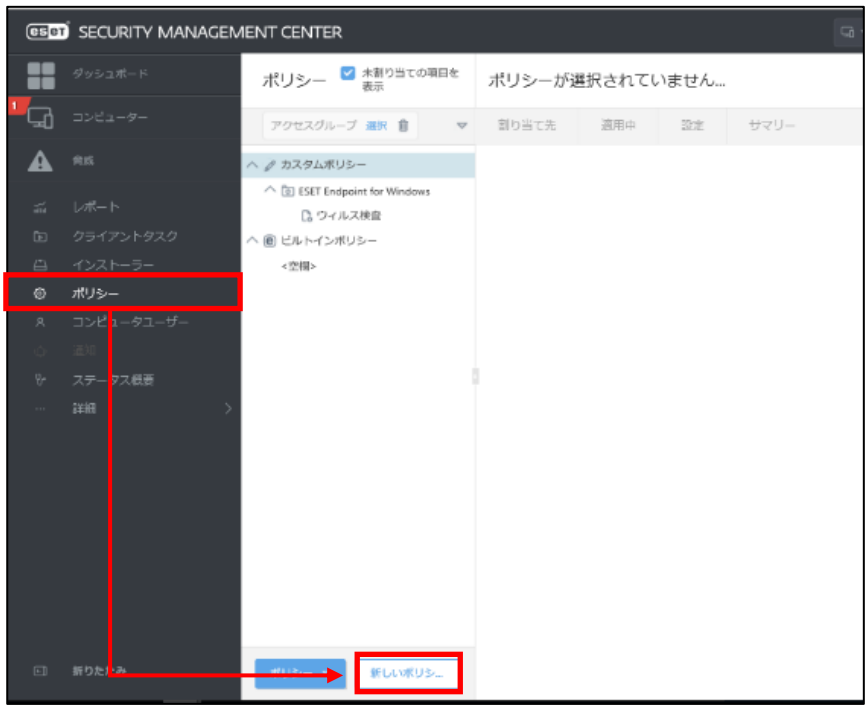


以上で、EM エージェント向け、HTTP プロキシ経由ポリシーの作成は完了です。
本ポリシーは、展開時にインストーラーに組み込むことで適用されます。

続いて、クライアントプログラムが HTTP プロキシを経由するためのポリシーを作成します。

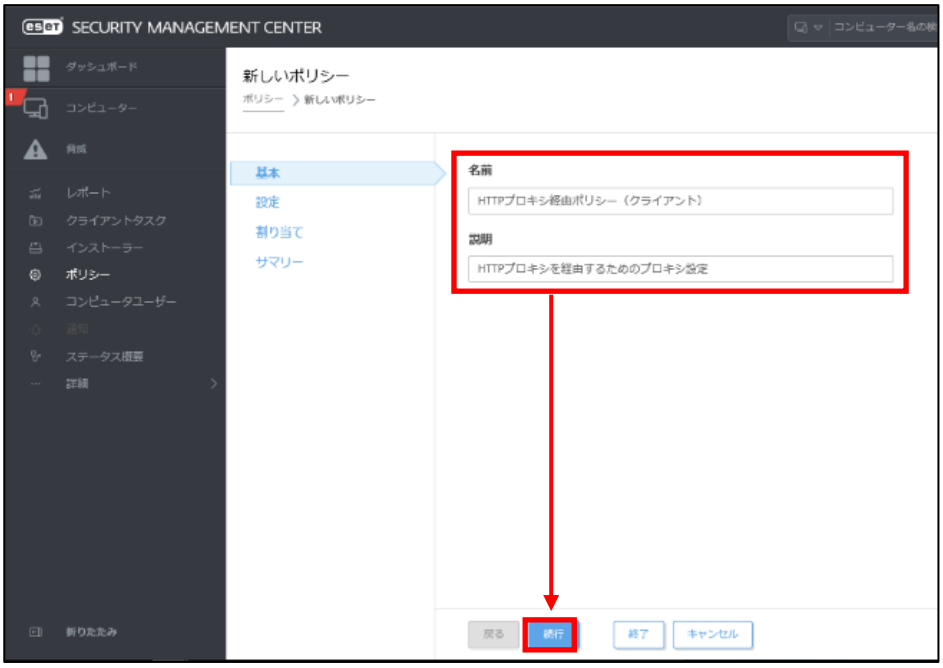
【クライアントプログラム向け、HTTP プロキシ経由ポリシー作成方法】

1. ESMC にログインし、「ポリシー」→「新しいポリシー」をクリックします。

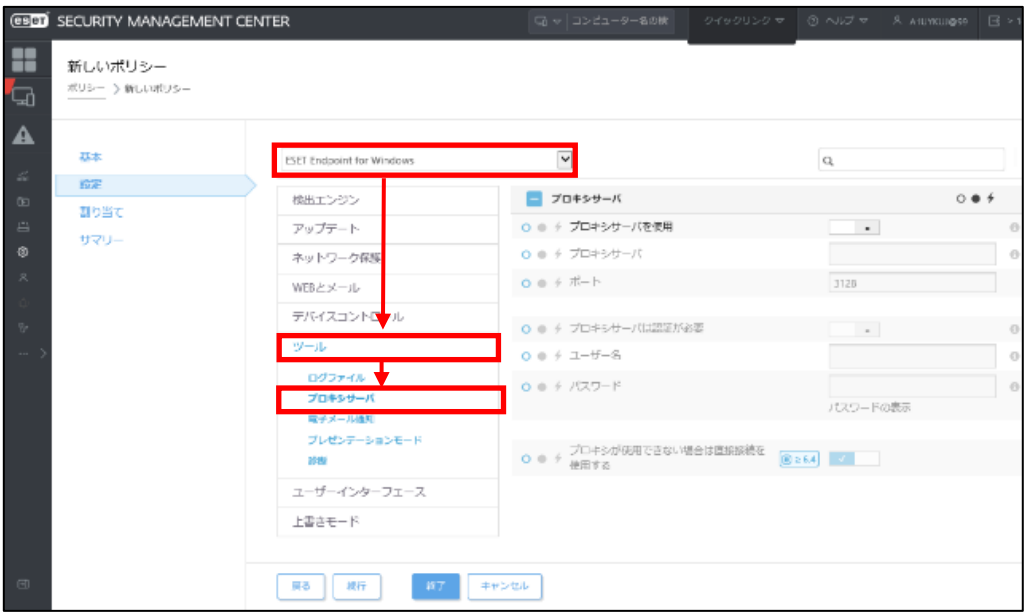


2. 以下を参考に入力し、「続行」をクリックします。

名前	HTTP プロキシ経由ポリシー（クライアント）
説明（任意）	HTTP プロキシを経由するためのプロキシ設定



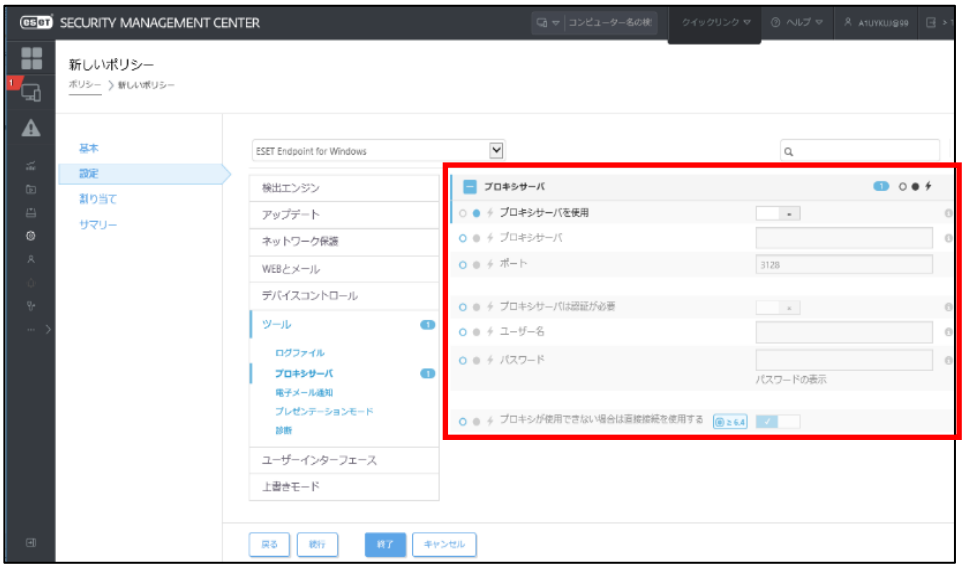
3. クライアント OS の場合「ESET Endpoint for Windows」、サーバーOS の場合「ESET File Security for Windows Server(V6+)」を選択し、「ツール」→「プロキシサーバ」と展開します。



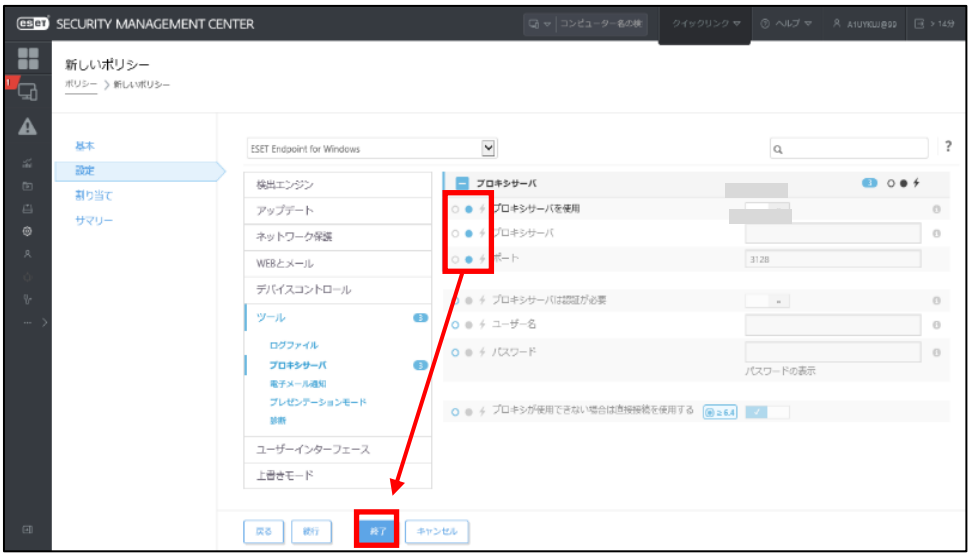
.

4. 以下の通り入力します。

プロキシサーバを使用	**有効**にする
プロキシサーバ	HTTP プロキシサーバーのホスト名または IP アドレス
ポート	HTTP プロキシサーバーのポート番号
プロキシサーバは認証が必要	プロキシ認証に対応していないため設定不可
ユーザー名	
パスワード	
HTTP プロキシが使用できない場合は直接接続を使用する	接続する場合は有効にする



5. 「プロキシサーバを使用」「プロキシサーバ」「ポート」のアイコンが、真ん中の「●」であることを確認し、「終了」をクリックします。



以上で、クライアントプログラム向け、HTTP プロキシ経由ポリシーの作成は完了です。
本ポリシーは、展開時にインストーラーに組み込むことで適用されます。

続いて、新規、もしくは、既存環境に応じて、オールインワンインストーラーの作成・実行に進んでください。

ポリシーの作成について、詳細は以下 Web ページもご参考ください。
【ESET Security Management Center V7.0 を利用して、新しいポリシーを作成する手順】
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/11854?site_domain=business

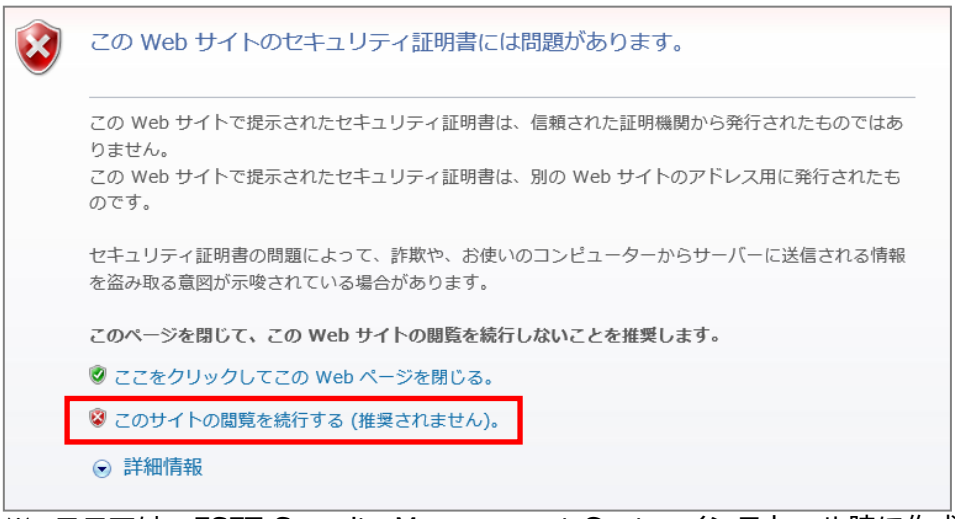
A-1-1. オールインワンインストーラーの作成【管理サーバー側作業】

クラウドオプションでクライアントの管理を行うためには、ESET クライアント用プログラムに加えて、ESET Management Agent（以降 EM エージェント）のインストールが必要です。管理サーバーでは、EM エージェントと ESET クライアント用プログラムを一つにまとめたインストーラーパッケージ「オールインワンインストーラー」を作成することができます。

以下に、オールインワンインスト―ラーの作成手順を記載します。

1. Web ブラウザより、「**3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備**」で確認した「Web コンソール（管理画面）ログイン用 URL」にアクセスします。

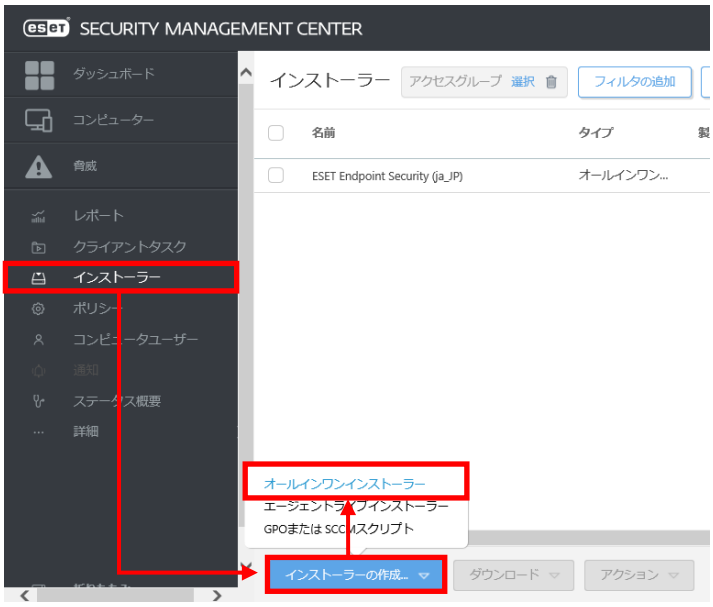
   以下の画面が表示されますので、「このサイトの閲覧を続行する（推奨されません）。」をクリックします。



※ ここでは、ESET Security Management Center インストール時に作成したセキュリティ証明書を利用しているため、管理画面アクセス時に上記の注意画面が表示されます。
※ お使いのブラウザより、表示内容が異なります。

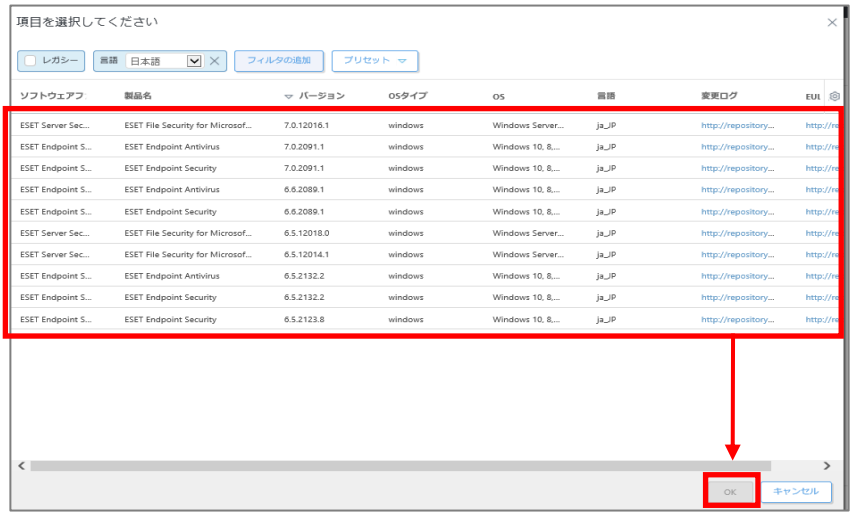
2. **3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備**」で確認した①「ESMC ログイン名」、②「ESMC ログインパスワード」を入力し、③「日本語」を選択して、④「ログイン」をクリックします。
   ※ 初回ログイン時、また、パスワード有効期限が切れた場合は、画面の指示に従ってパスワード変更を行ってください。また、左下の「パスワード変更」から変更することも可能です。

3. 「インストーラー」→「インストーラーの作成」→「オールインワンインストーラー」をクリックします。

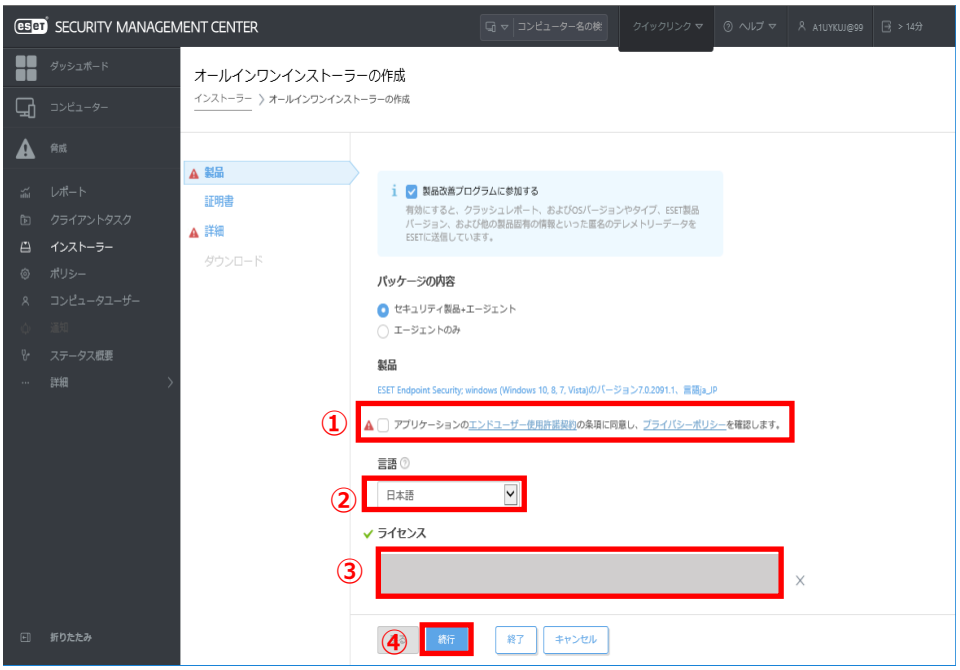


4. 「セキュリティ製品＋エージェント」を選択します。
製品にて、すでに設定されているクライアント用プログラムをクリックします。
※ 既定で設定されている製品は、登録したライセンスにより変わります。

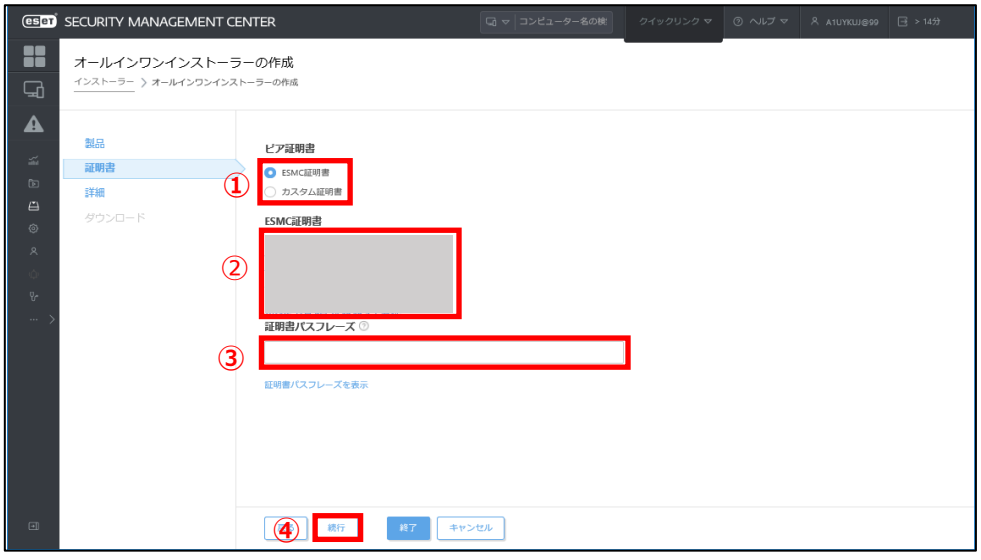
5. インストールしたいクライアント用プログラムを選択して、「OK」ボタンをクリックします。



6. ①「アプリケーションエンドユーザー使用許諾契約に同意します」に**チェックを入れます**。
   ②「日本語」が選択されていることを確認します。
   ③「ライセンス（任意）」にライセンスが登録されていることを確認します。
   ④「続行」をクリックします。



7. ①「ESMC 証明書」が選択されていることを確認します。
   ② ESMC 証明書に証明書が登録されていることを確認します。
   ③「証明書パスフレーズ」には、「**3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備**」で確認した「証明書パスフレーズ」を入力します。
   ④「続行」をクリックします。



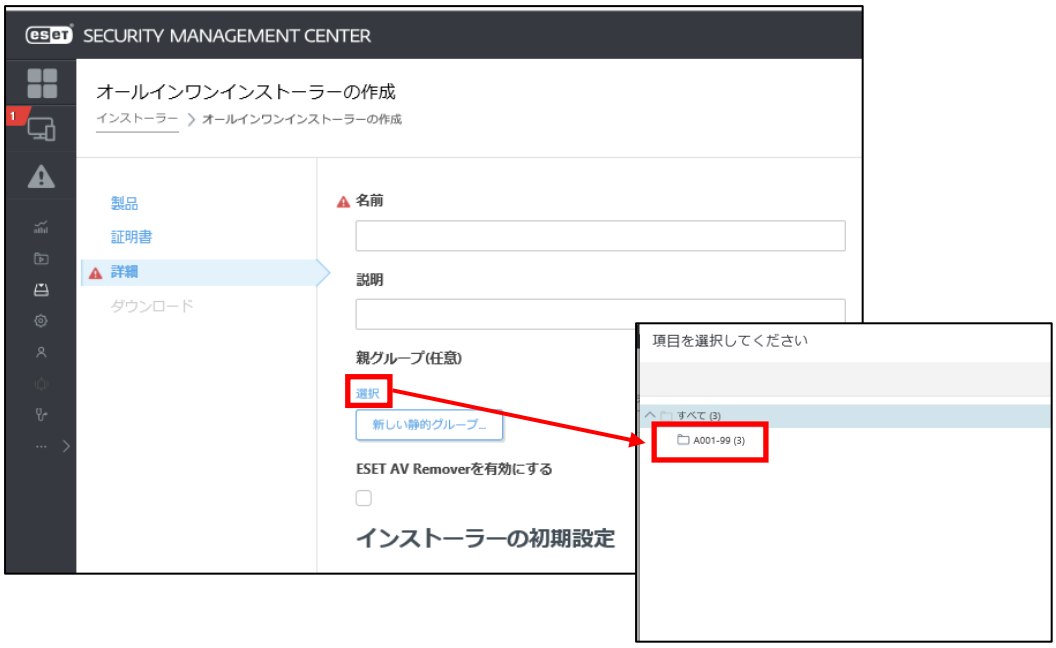
8. 名前を入力します。
   ※ 説明の入力は任意です。

9. 「親グループ（任意)」では、[選択]をクリックし、**ご利用開始時に提供されている既定のグループを必ず選択してください。**

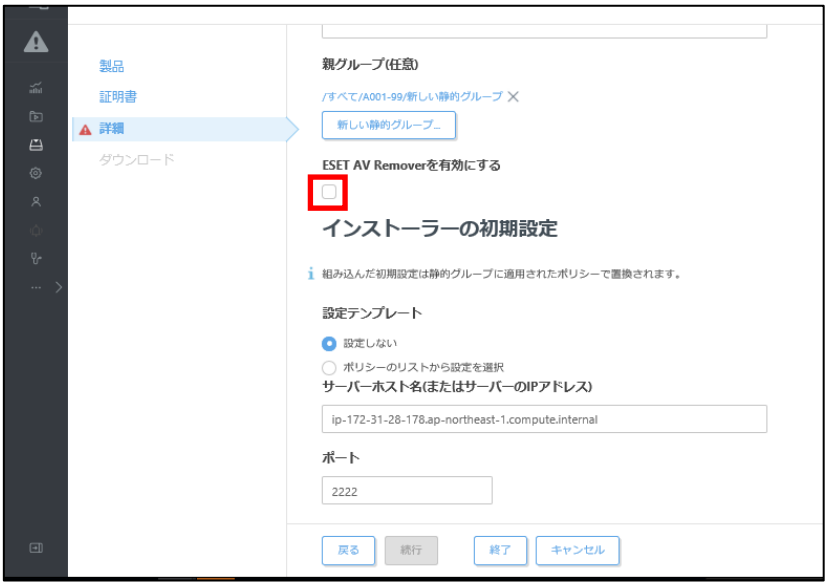
Point

「親グループ(任意)」を選択しないと、クライアントが管理サーバーに表示されません。必ず選択をお願いいたします。

また、親グループに「すべて」を選択することはできません。

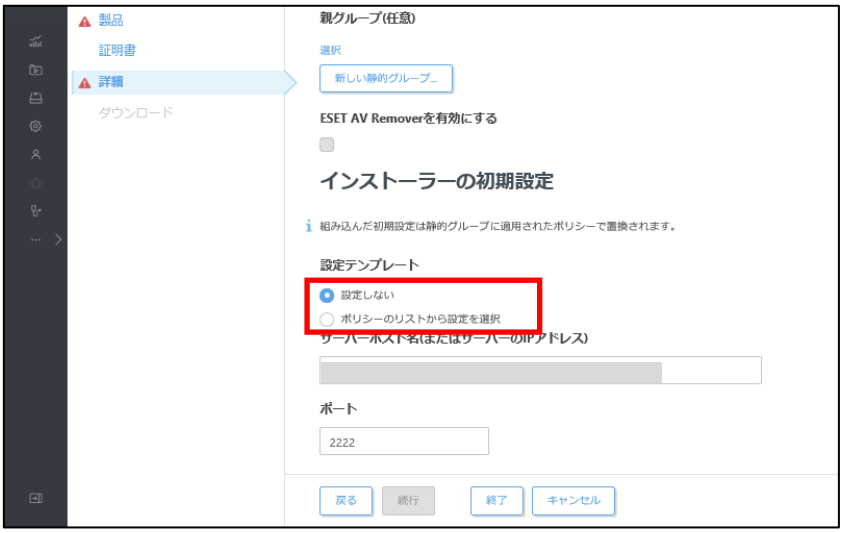


10. [ESET AV Remover を有効にする]に**チェックが入っていない**ことを確認します。チェックが入っていた場合は外してください。



11. インストーラーの初期設定」の「設定テンプレート」では、以下を参考に設定します。

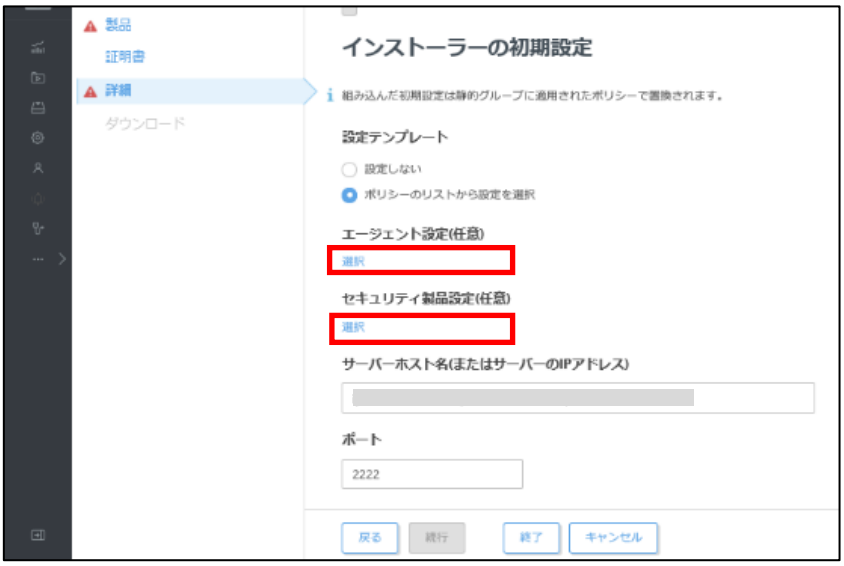
設定しない	既定の設定から変更せずに、クライアント端末にインストールする場合
ポリシーのリストから設定を選択	既存のポリシーを適用させて、クライアント端末にインストールする場合 ※HTTP プロキシを経由する場合はこちらを選択します。



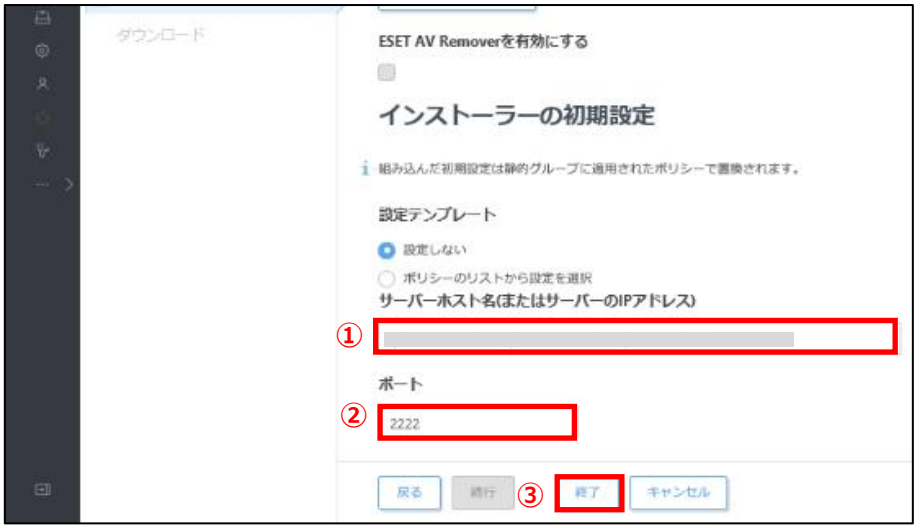
新しいポリシーを作成する場合は、下記の WEB ページをご参照ください。
【ESET Security Management Center V7.0 を利用して、新しいポリシーを作成する手順】
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/11854?site_domain=business

12. 手順 11 で「ポリシーのリストから設定を選択」を選択した場合は、以下を参考に、「選択」をクリックし、EM エージェントとクライアント用プログラムに適用したいポリシーを選択して「OK」ボタンをクリックします。

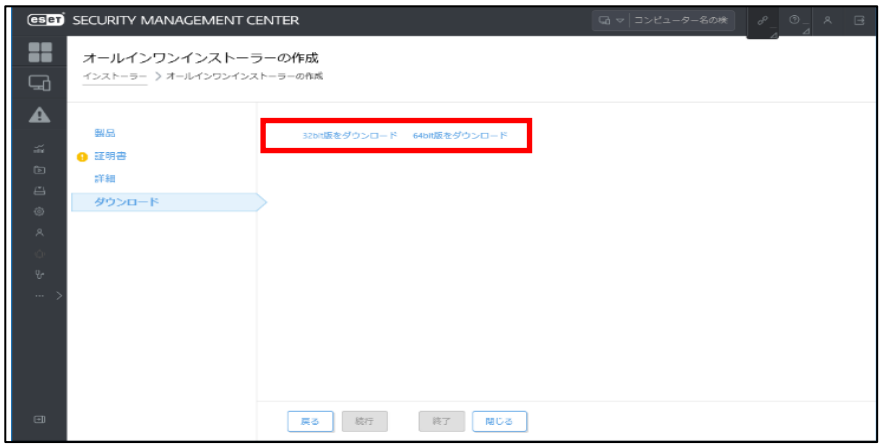
エージェントの設定 （任意）	クライアント端末にインストールする EM エージェントにポリシーを適用する場合に設定 ※HTTP プロキシを経由する場合は、＜事前準備＞HTTP プロキシを経由する場合で作成した「HTTP プロキシ経由ポリシー（EM エージェント）」を選択します。
セキュリティ製品設定 （任意）	クライアント端末にインストールするクライアント用プログラムにポリシーを適用する場合に設定 ※HTTP プロキシを経由する場合は、＜事前準備＞HTTP プロキシを経由する場合で作成した「HTTP プロキシ経由ポリシー（クライアント）」を選択します。



13. ①「サーバーホスト名（またはサーバーの IP アドレス）」に「**3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備**」で確認した「ESMC サーバー/ERA サーバーの IP アドレス」を入力してください。
②「ポート」にポート番号「**2222**」が入力されていることを確認します。
③「終了」をクリックします。



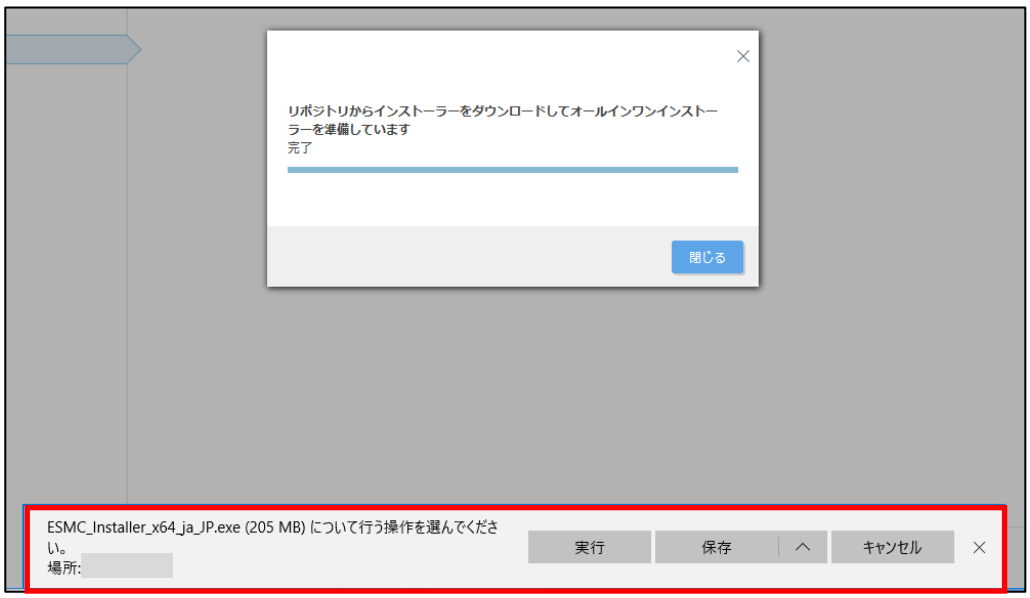
14. インストールするクライアント端末の環境にあわせて、[32bit 版をダウンロード]または「64bit 版をダウンロード」をクリックします。



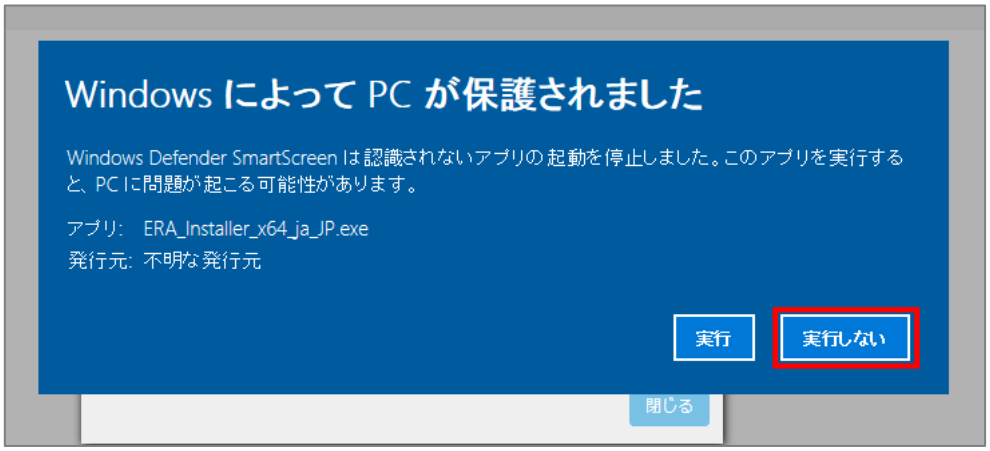
Point

ご利用のネットワーク環境によって、オールインワンインストーラーのダウンロードに時間がかかる場合があります。
プログレスバーが動かない場合でも、プログラムのダウンロードを行っていますので、しばらくお待ちください。

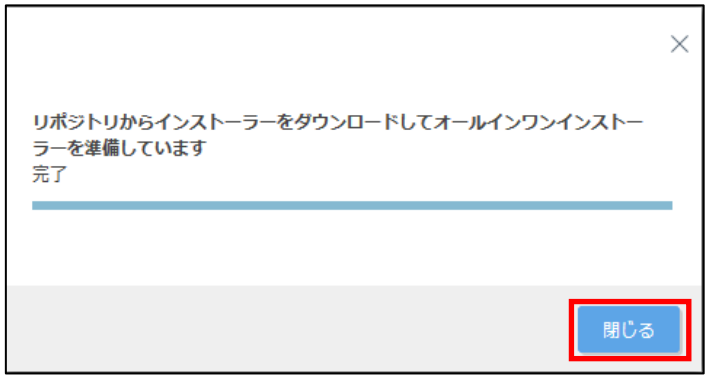
15. ファイルの保存を促す画面が表示されたら、任意の保存先を指定してインストーラーを保存します。
※ ファイル名は、32bit 用のオールインワンインストーラーの場合「ESMC_Installer_x86_ja_JP.exe」、64bit 用のオールインワンインストーラーの場合「ESMC_Installer_x64_ja_JP.exe」です。



16. 以下の画面が表示されたら、「実行しない」を選択してください。



17. 終了したら「閉じる」ボタンをクリックします。



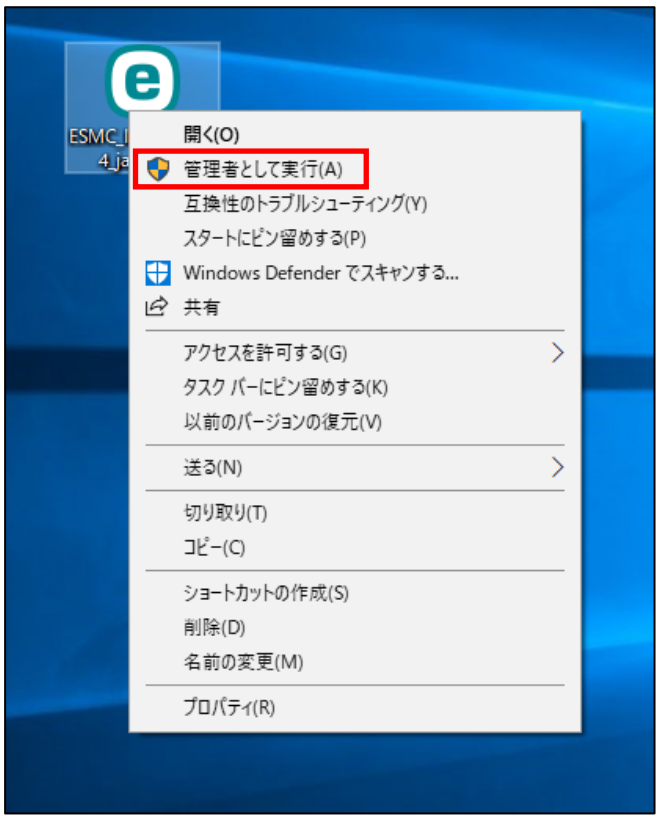
以上でオールインワンインストーラーの作成は完了です。
手順 15 で指定した場所に、オールインワンインストーラーが保存されていることを確認し、クライアントに配布してください。

A-1-2. オールインワンインストーラーの実行【クライアント側作業】

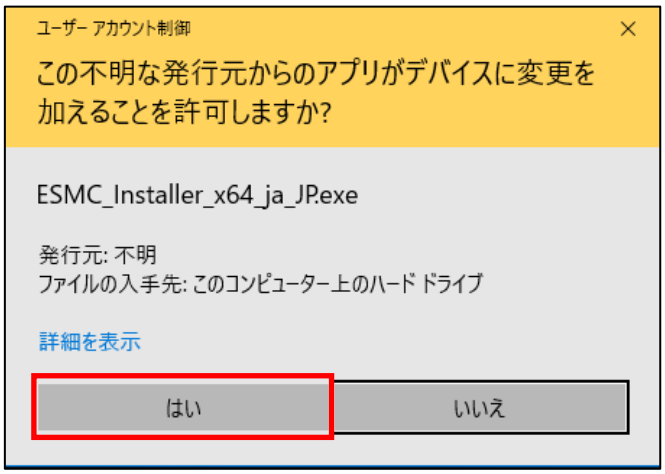
オールインワンインストーラーを各クライアント端末上で実行し、EM エージェントと ESET クライアント用プログラムをインストールします。

以下にオールインワンインストーラーの実行手順を記載します。

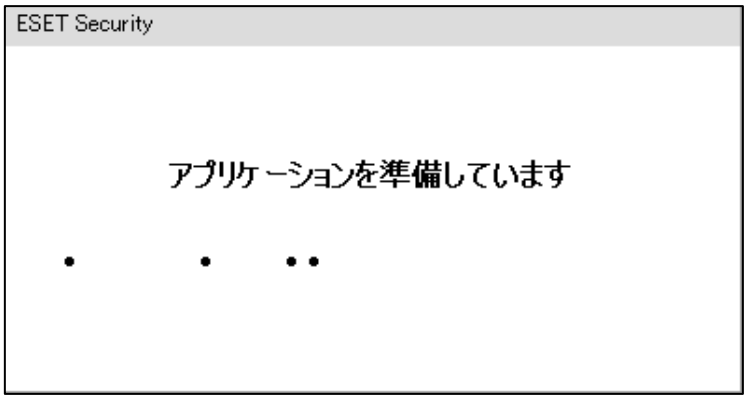
1. オールインワンインストーラーを右クリックより、「管理者として実行」をクリックします。



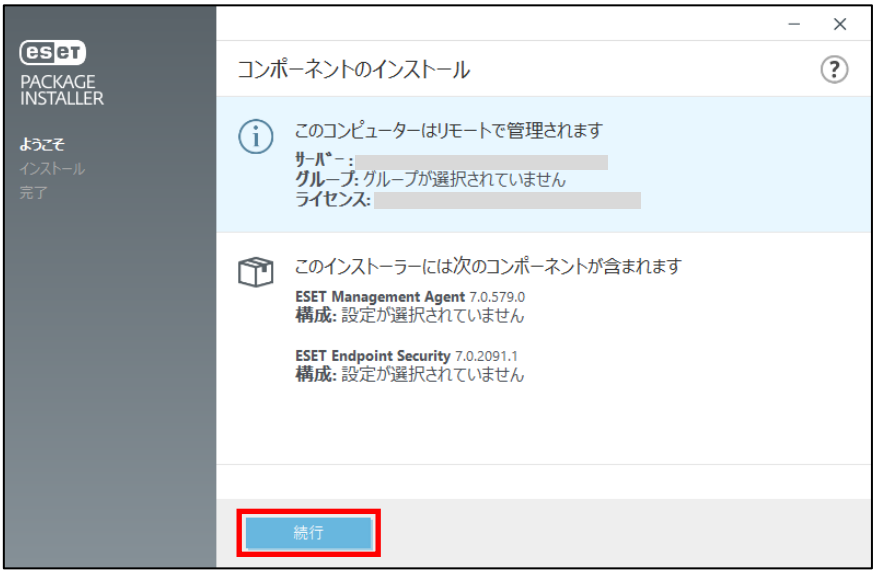
2. 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックします。



3. 以下の画面が表示され、アプリケーションが起動します。



4. 「続行」ボタンをクリックします。

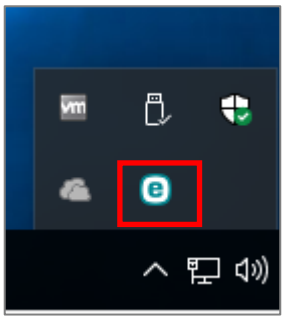


5. 「保護の設定」画面で、以下を参考に設定し、「インストール」ボタンをクリックします。

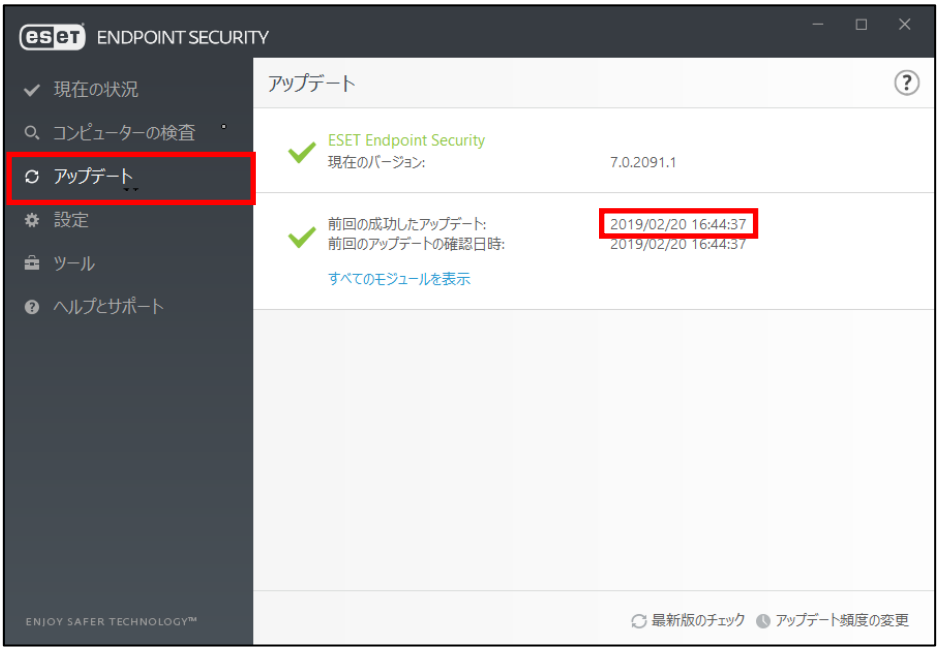
ESET LiveGrid フィードバックシステムを有効にする	チェックを入れると、本プログラムが新しい脅威を発見した場合に ESET 社へその情報を提出します。
望ましくない可能性のあるアプリケーションの検出	望ましくないアプリケーションの検出有無を選択します。 ※ ESET 製品は「不審なアプリケーション」を「望ましくない可能性のあるアプリケーション」として検出します。

6. 「インストール成功」画面が表示されたら、「完了」ボタンをクリックしてください。

7. タスクトレイの ESET アイコンをダブルクリックし、ESET のメイン画面が開きます。



8. 「アップデート」より、検出エンジンのアップデートが自動で開始され、「前回の成功したアップデート」に現在の時刻が入っていることを確認してください。
※初回アップデートが完了すると、コンピュータの検査が開始いたします。



※本画面は、ESET Endpoint Security V7 のものです。

以上でオールインワンインストーラーの実行は完了です。
続いて「6. クラウドオプション Lite で管理ができていることを確認」に進んでください。

【既存お客様向け】

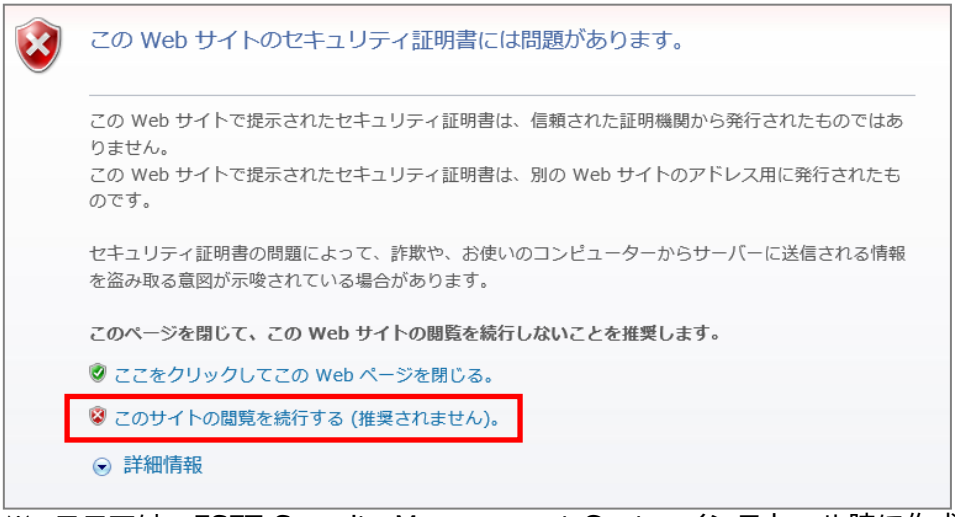
A-2-1. オールインワンインストーラー（EM エージェントのみ）の作成 【管理サーバー側作業】

クラウドオプション Lite でクライアントの管理を行うためには、EM エージェントのインストールが必要です。すでに、クライアント用プログラムをご利用の方は ESMC で作成した EM エージェントインストール用の exe ファイルを実行することでクラウドオプション Lite で管理を行うことが可能です。

以下に、オールインワンインストーラー（EM エージェントのみ）の作成手順を記載します。

1. Web ブラウザより、「**3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備**」で確認した「Web コンソール（管理画面）ログイン用 URL」にアクセスします。

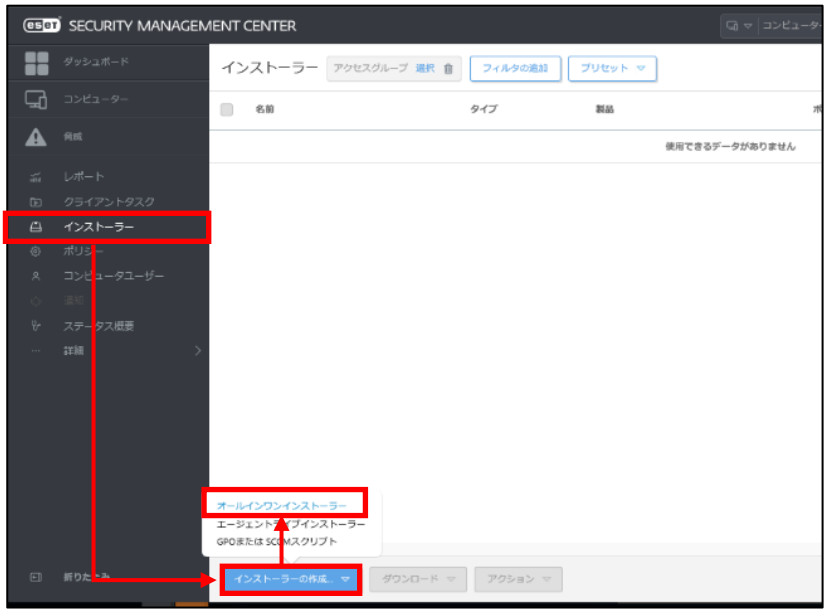
   以下の画面が表示されますので、「このサイトの閲覧を続行する（推奨されません）。」をクリックします。



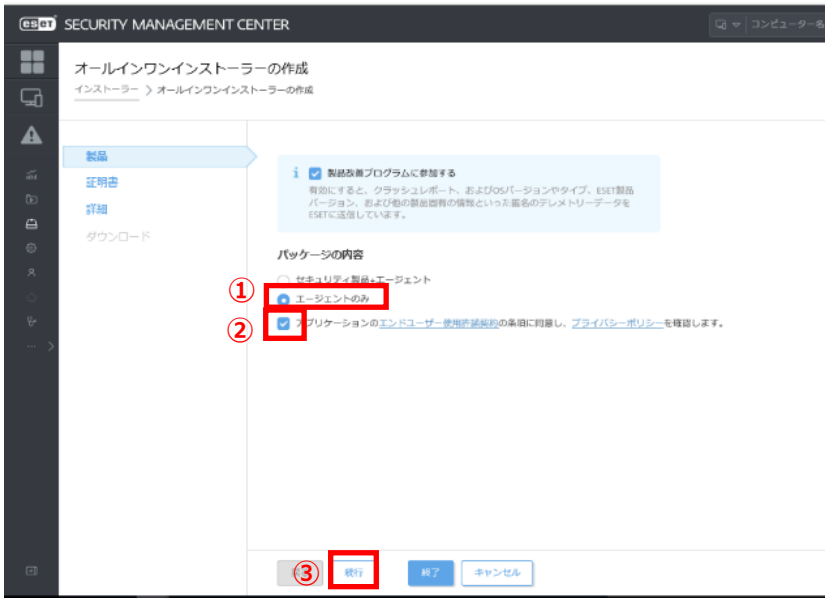
※ ここでは、ESET Security Management Center インストール時に作成したセキュリティ証明書を利用しているため、管理画面アクセス時に上記の注意画面が表示されます。
※ お使いのブラウザより、表示内容が異なります。

2. 「**3.6.ライセンス情報･ログイン情報の準備**」で確認した①「ESMC ログイン名」、②「ESMC ログインパスワード」を入力し、③「日本語」を選択して、④「ログイン」をクリックします。

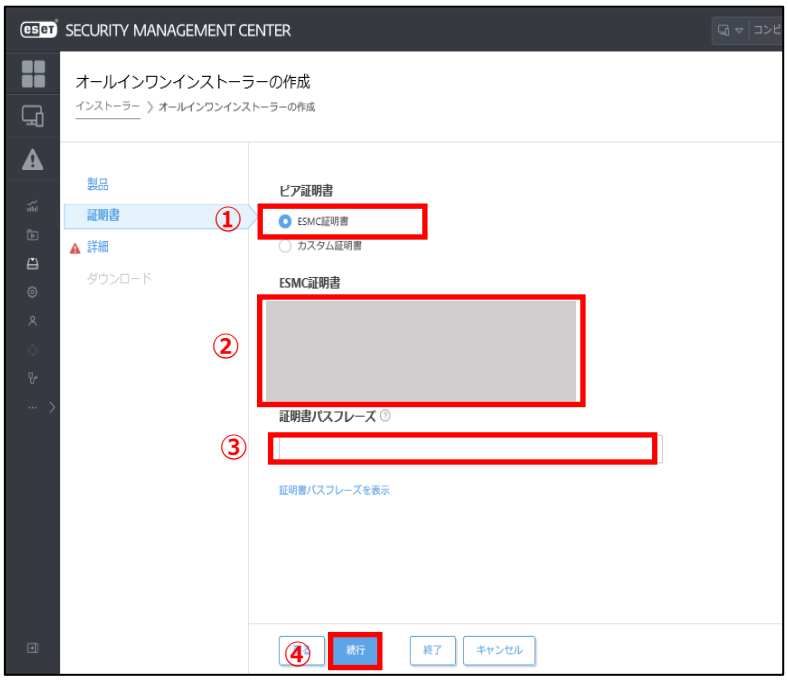
3. 左メニューより、「インストーラー」→「インストーラーの作成」→「オールインワンインストーラー」をクリックします。



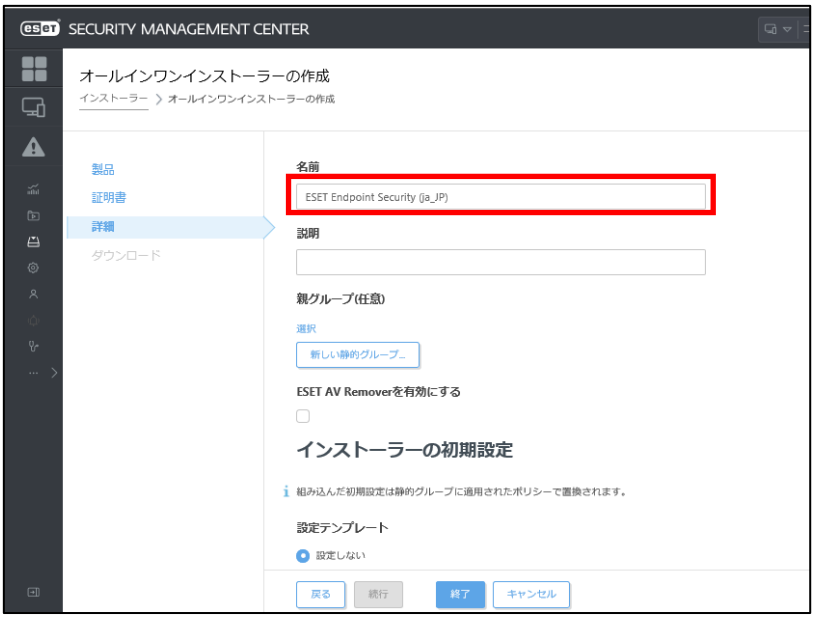
4. ①「エージェントのみ」を選択します。
②「アプリケーションエンドユーザー使用許諾契約に同意します」に**チェックを入れます**。
③「続行」をクリックします。



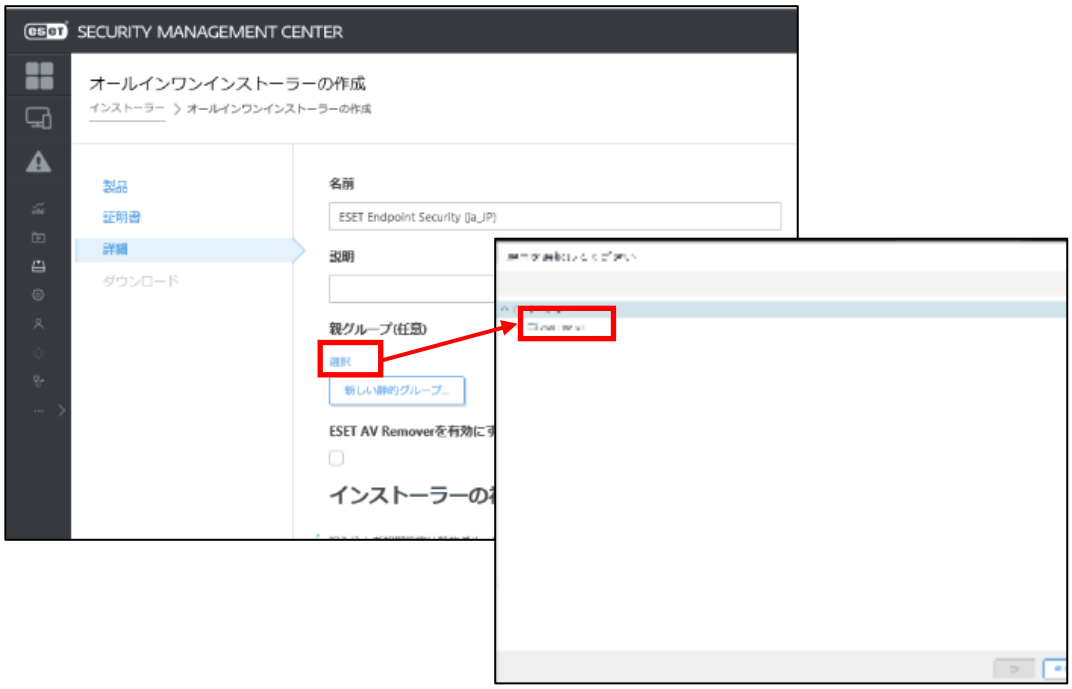
5. ①「ESMC 証明書」が選択されていることを確認します。
② ESMC 証明書に証明書が登録されていることを確認します。
③「証明書パスフレーズ」には、「**3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備**」で確認した「証明書パスフレーズ」を入力します。
④「続行」をクリックします。



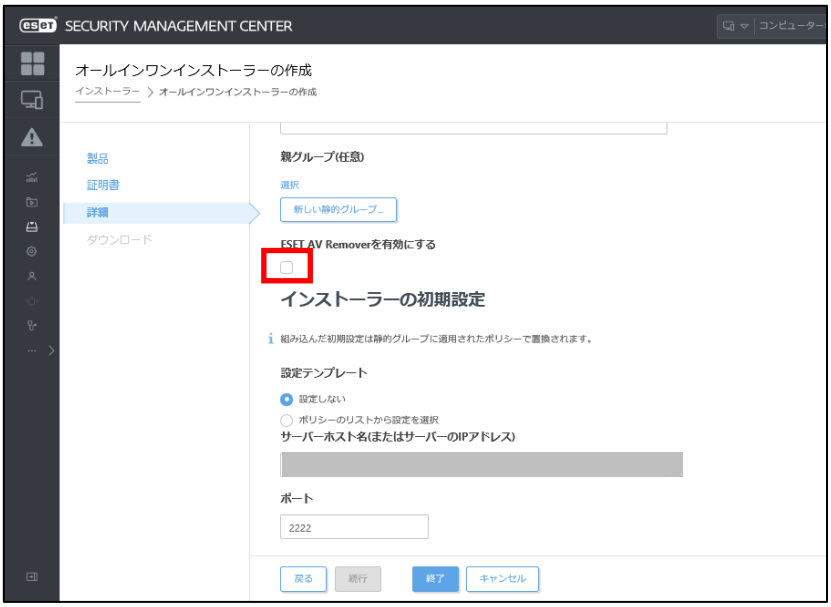
6. 名前を入力します。
※説明の入力は任意です。



7. 「親グループ（任意）」では、[選択]をクリックし、**ご利用開始時に提供されている既定のグループを必ず選択してください。（P28 参照）**



8. [ESET AV Remover を有効にする]に**チェックが入っていない**ことを確認します。チェックが入っていた場合は外してください。

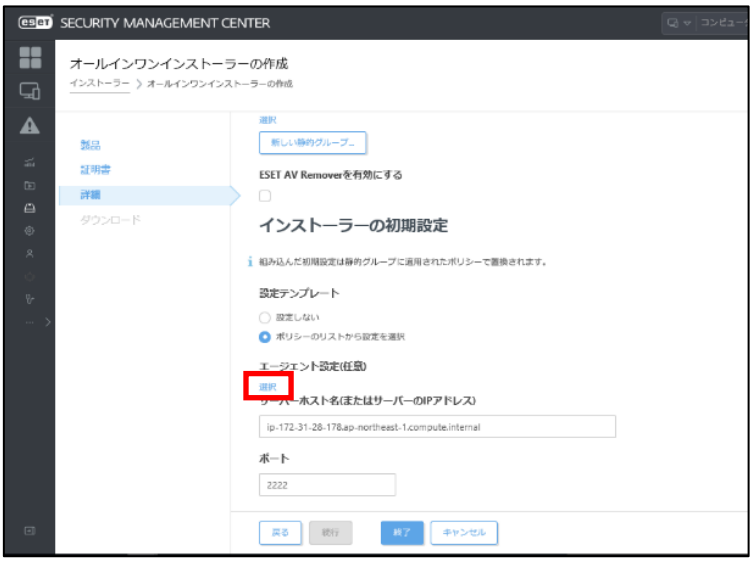


9.「インストーラーの初期設定」の「設定テンプレート」では、以下を参考に設定します。

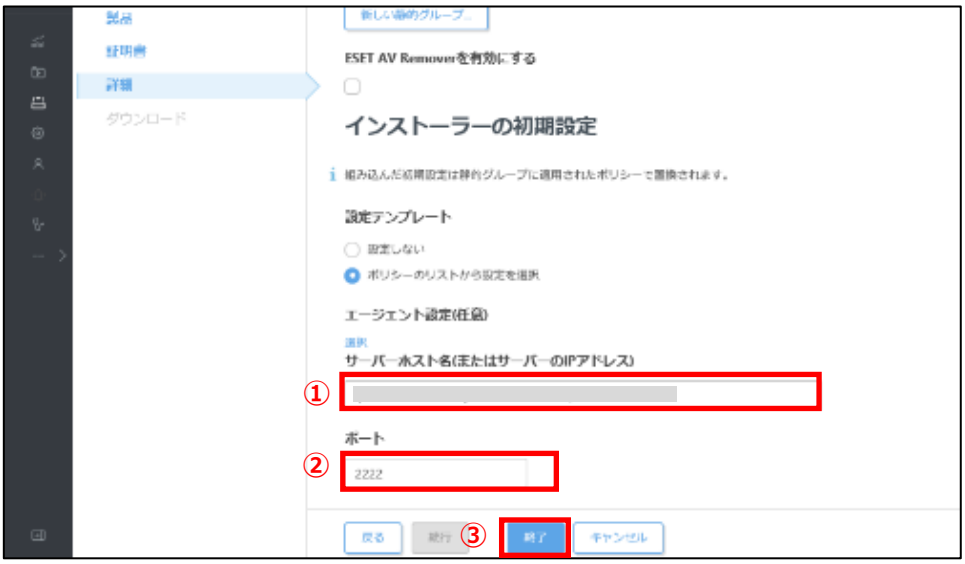
設定しない	既定の設定から変更せずに、クライアント端末にインストールする場合
ポリシーのリストから設定を選択	既存のポリシーを適用させて、クライアント端末にインストールする場合 ※HTTP プロキシを経由する場合は、こちらを選択します。

10. 手順 9 で「ポリシーのリストから設定を選択」を選択した場合は、以下を参考に、「選択」をクリックし、EM エージェントのポリシーを選択して「OK」ボタンをクリックします。

エージェントの設定（任意）	クライアント端末にインストールする EM エージェントにポリシーを適用する場合に設定 ※HTTP プロキシを経由する場合は、＜事前準備＞HTTP プロキシを経由する場合で作成した「HTTP プロキシ経由ポリシー（EM エージェント）」を選択します。



11. ①「サーバーホスト名（またはサーバーの IP アドレス）」に「**3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備**」で確認した「ESMC サーバー/ERA サーバーの IP アドレス」を入力してください。
②「ポート」にポート番号「**2222**」が入力されていることを確認します。
③「終了」をクリックします。

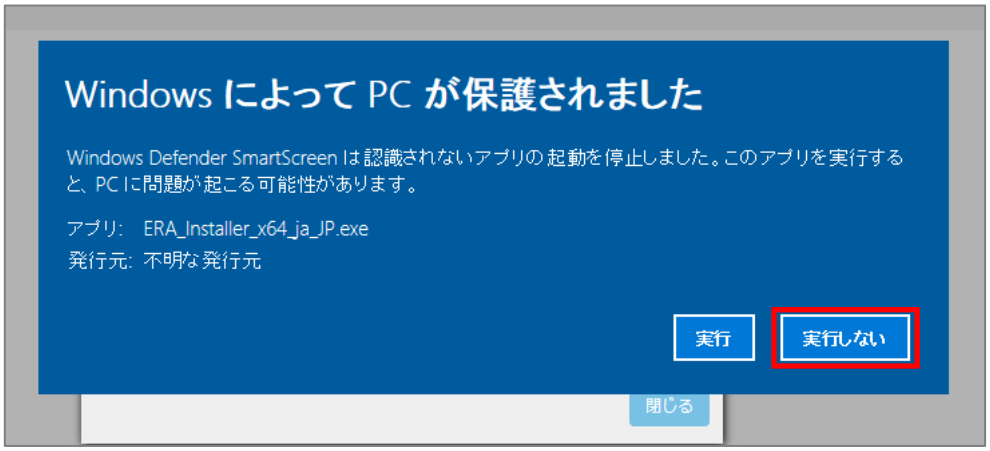


12. インストールするクライアント端末の環境にあわせて、[32bit 版をダウンロード]または「64bit 版をダウンロード」をクリックします。

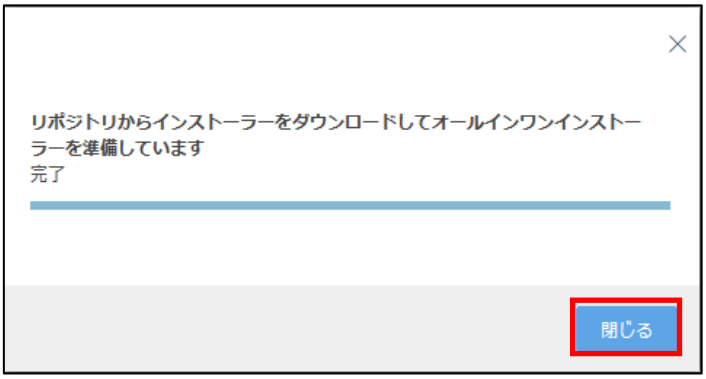
13. ファイルの保存を促す画面が表示されたら、任意の保存先を指定してインストーラーを保存します。
    ※ ファイル名は、32bit 用のオールインワンインストーラーの場合「ESMC_Installer_x86.exe」、64bit 用のオールインワンインストーラーの場合「ESMC_Installer_x64.exe」です。

ご利用のネットワーク環境によって、オールインワンインストーラーのダウンロードに時間がかかる場合があります。
プログレスバーが動かない場合でも、プログラムのダウンロードを行っていますので、しばらくお待ちください。

14. 以下の画面が表示されたら、「実行しない」を選択してください。



15. 終了したら「閉じる」ボタンをクリックします。



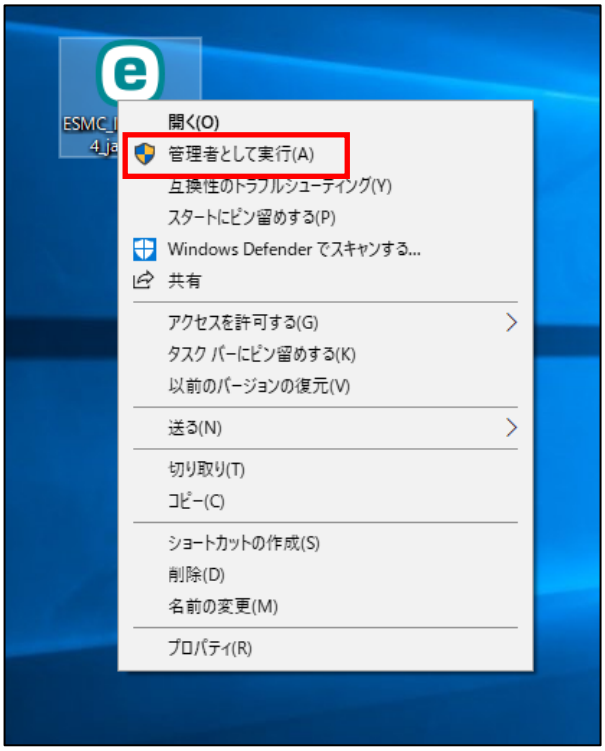
以上でオールインワンインストーラーの作成は完了です。
手順 13 で指定した場所に、オールインワンインストーラーが保存されていることを確認し、クライアントに配布してください。

A-2-2. オールインワンインストーラー（EM エージェントのみ）の実行 【クライアント側作業】

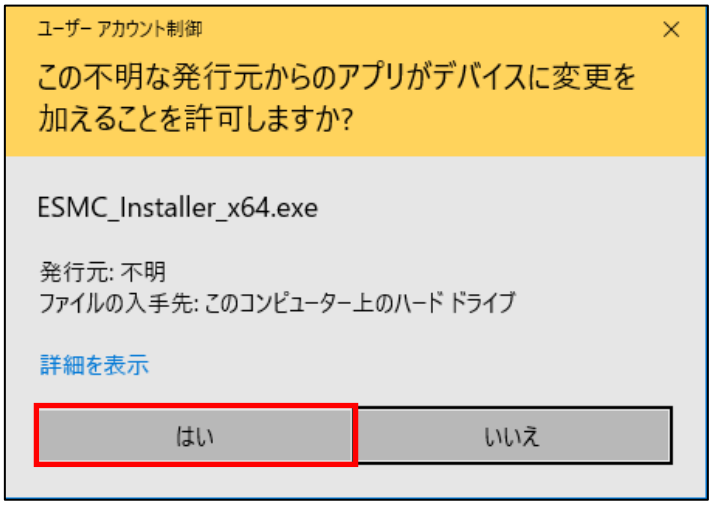
オールインワンインストーラーを各クライアント端末上で実行し、EM エージェントをインストールします。

以下にオールインワンインストーラーの実行手順を記載します。

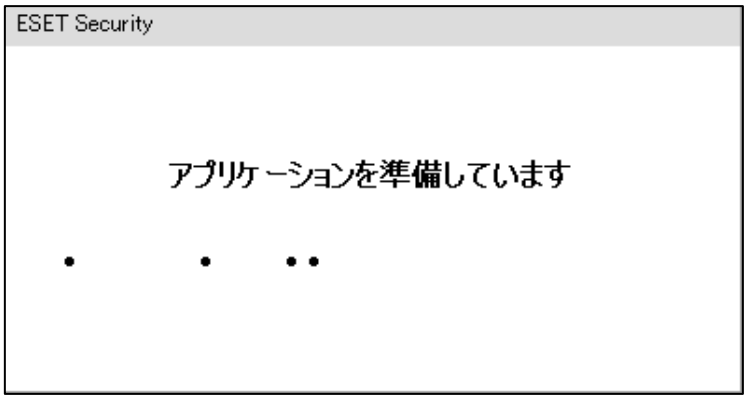
1. オールインワンインストーラーを右クリックより、「管理者として実行」をクリックします。



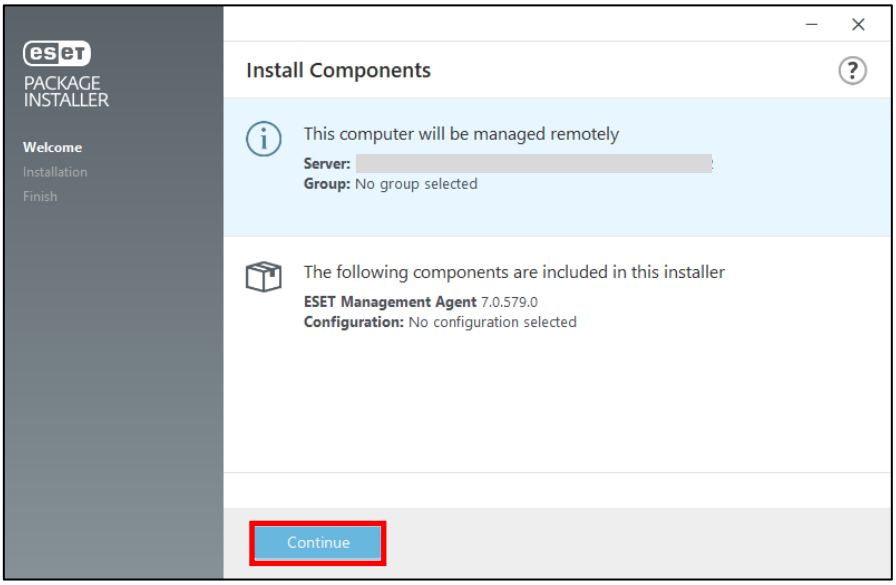
2. 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックします。



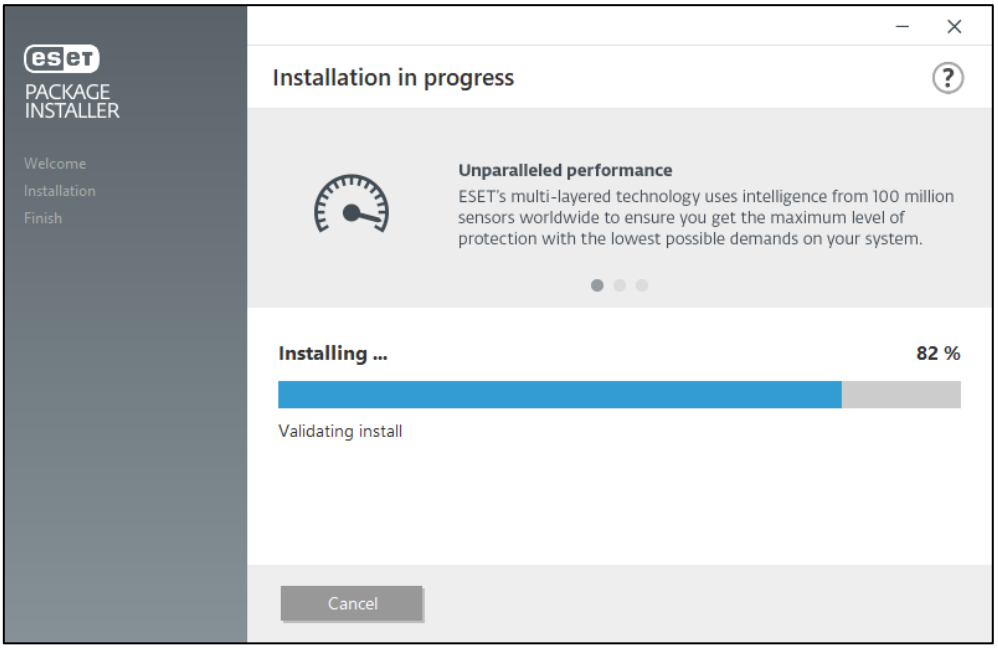
3. 以下の画面が表示され、アプリケーションが起動します。



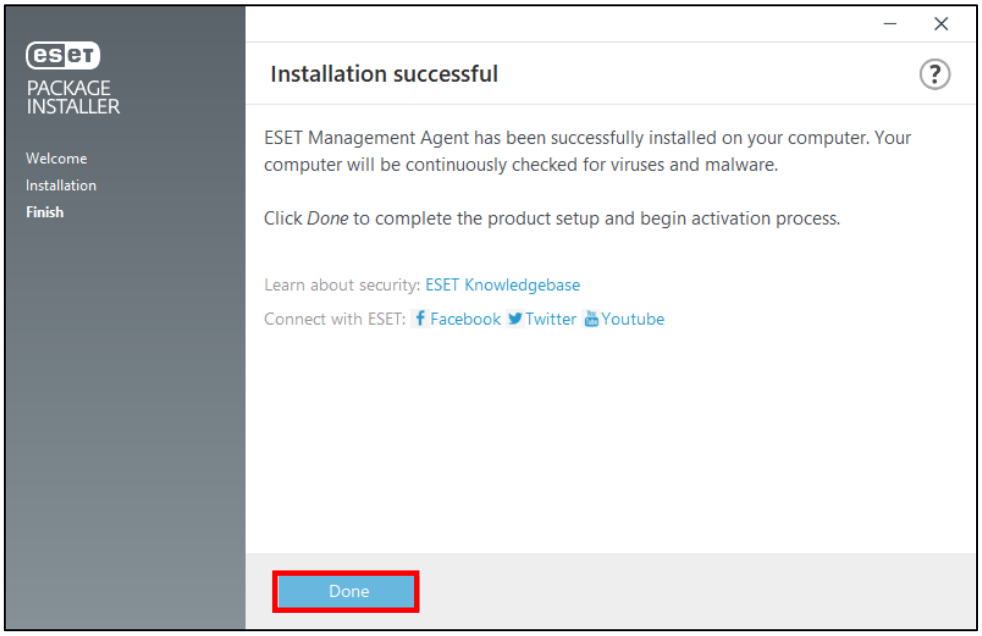
4. 「Continue」をクリックします。



5. 以下のような画面が表示され、自動的にインストールが進みます。



6. 「Installation successful」画面が表示されたら、「Done」ボタンをクリックしてください。



以上で、EM エージェントのインストールは完了です。
続いて、「6. クラウドオプション Lite で管理ができていることを確認」に進んでください。

B）Mac、Linux 端末への展開

【新規お客様向け】

クライアント用プログラムがインストールされていない

B-1-1. クライアント用プログラムのインストール【クライアント側作業】

ESET クライアント用プログラムを各クライアント端末上で実行します。

⇩

B-1-2. エージェントライブインストーラーの作成【管理サーバー側作業】

「EM エージェント」をインストールするためのエージェントライブインストーラーを ESMC で作成します。プログラム作成後はクライアント端末に配布します。

⇩

＜事前準備＞HTTP プロキシを経由する場合【管理サーバー側作業】

HTTP プロキシ経由で ESMC へ接続する場合、EM エージェントとクライアントプログラムの両プログラムに対して、HTTP プロキシ経由するための設定を行います。
HTTP プロキシを経由しない場合は、本手順は必要ございません。
下記の手順に進んでください。

⇩

B-1-3. エージェントライブインストーラーの実行【クライアント側作業】

インストールが完了すると、クラウドオプション Lite の ESMC と通信が自動的に行われま

⇩

7. クラウドオプション Lite で管理ができていることを確認【管理サーバー側作業】

Web ブラウザからクラウドオプション Lite の ESMC にアクセスし、クライアントの管理状況を確認します。

【既存お客様向け】

すでにクライアント用プログラムはインストールされている

B-1-1. クライアント用プログラムのインストール【クライアント側作業】

各クライアント端末に ESET クライアント用プログラムをインストールします。

インストール方法につきまして、ユーザーズサイトよりダウンロード可能な各プログラムのユーザーズマニュアルをご参照ください。

クラウドオプションの ERA のソフトウェアインストールタスクを利用して、クライアントプログラムをリモートでインストールすることも可能です。
実施手順につきまして、以下の Web ページをご参照ください。
【【V6.2 以降】クライアント管理用プログラムに搭載されているソフトウェアインストールタスクを使用して、クライアント用プログラムをリモートインストールするには？】
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/5165?site_domain=business

【HTTP プロキシを経由する場合】
インターネット接続にプロキシサーバーを経由する場合は、以下参照しプロキシサーバー設定を行ってください。
詳細は、各プログラムのユーザーズマニュアルをご参照ください。

◆Mac クライアント用プログラム
「詳細設定」→「プロキシサーバー」

◆Linux サーバー用プログラム
Web インターフェースより、「Configuration」→「Grobal」→「Deamon options」→「Proxy address」と「Proxy port」

◆Linux クライアント用プログラム
「詳細設定」→「その他」→「プロキシサーバー」

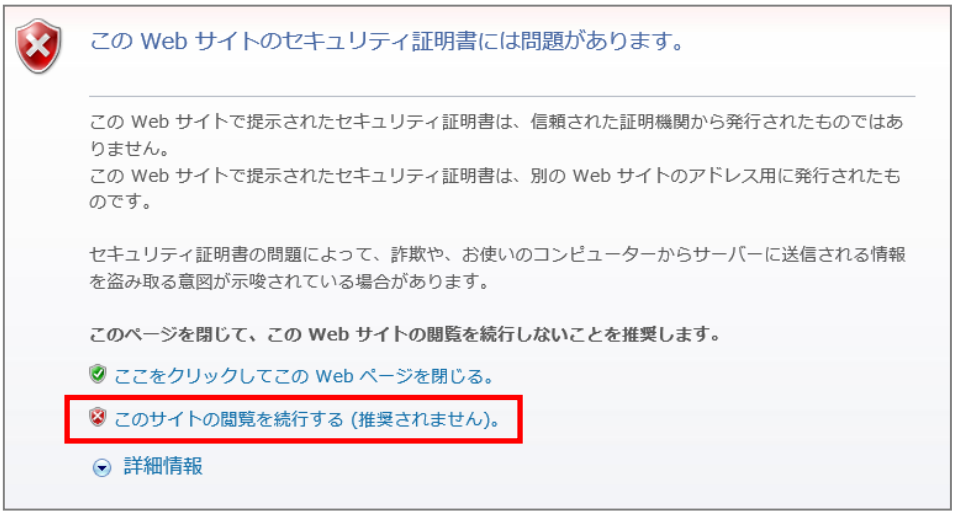
B-1-2. エージェントライブインストーラーの作成【管理サーバー側作業】

クラウドオプション Lite でクライアントの管理を行うためには、クライアント用プログラムのほかに EM エージェントのインストールが必要です。EM エージェントをインストールするには、EM エージェントインストール用の bat ファイル「エージェントライブインストーラー」を利用します。

以下に、オールインワンインストーラー（EM エージェントのみ）の作成手順を記載します。

1. Web ブラウザより、「**3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備**」で確認した「Web コンソール（管理画面）ログイン用 URL」にアクセスします。

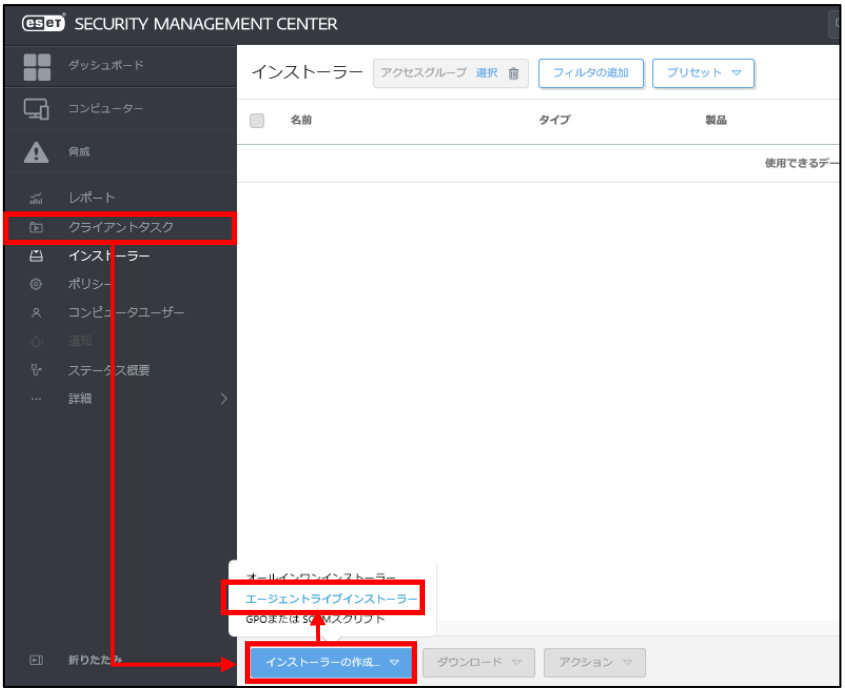
   以下の画面が表示されますので、「このサイトの閲覧を続行する（推奨されません）。」をクリックします。



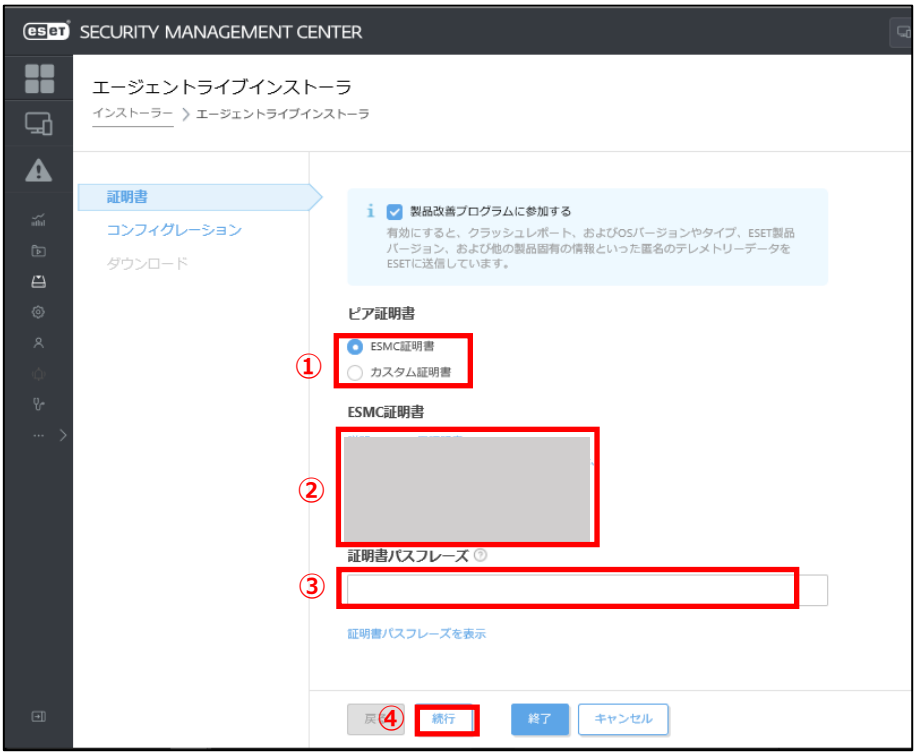
※ ここでは、ESET Security Management Center インストール時に作成したセキュリティ証明書を利用しているため、管理画面アクセス時に上記の注意画面が表示されます。
※ お使いのブラウザより、表示内容が異なります。

2. 「**3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備**」で確認した①「ESMC ログイン名 ②「ESMC ログインパスワード」を入力し、③「日本語」を選択して、④「ログイン」をクリックします。

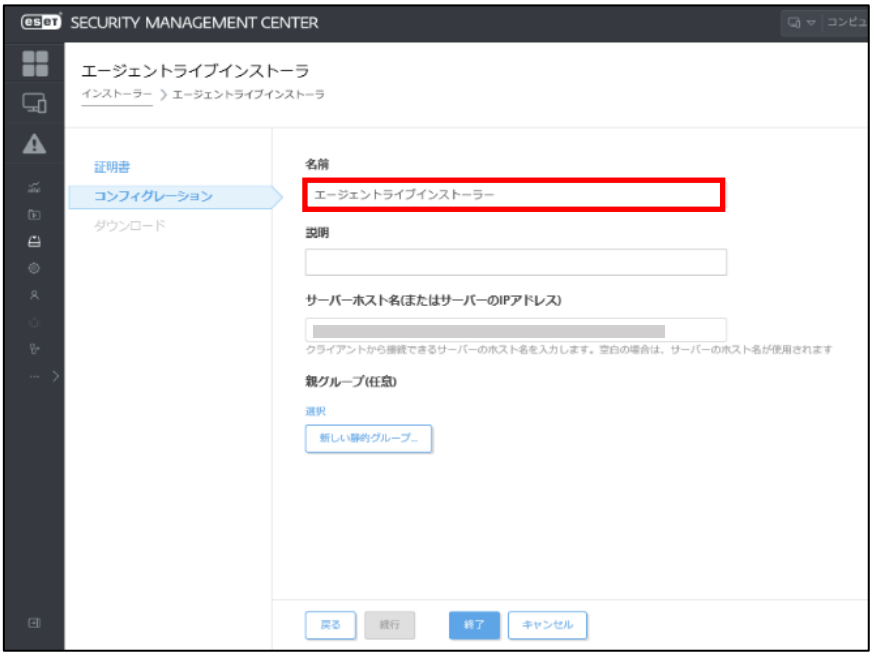
3. 左メニューより、「インストーラー」→「インストーラーの作成」→「エージェントライブインストーラー」をクリックします。



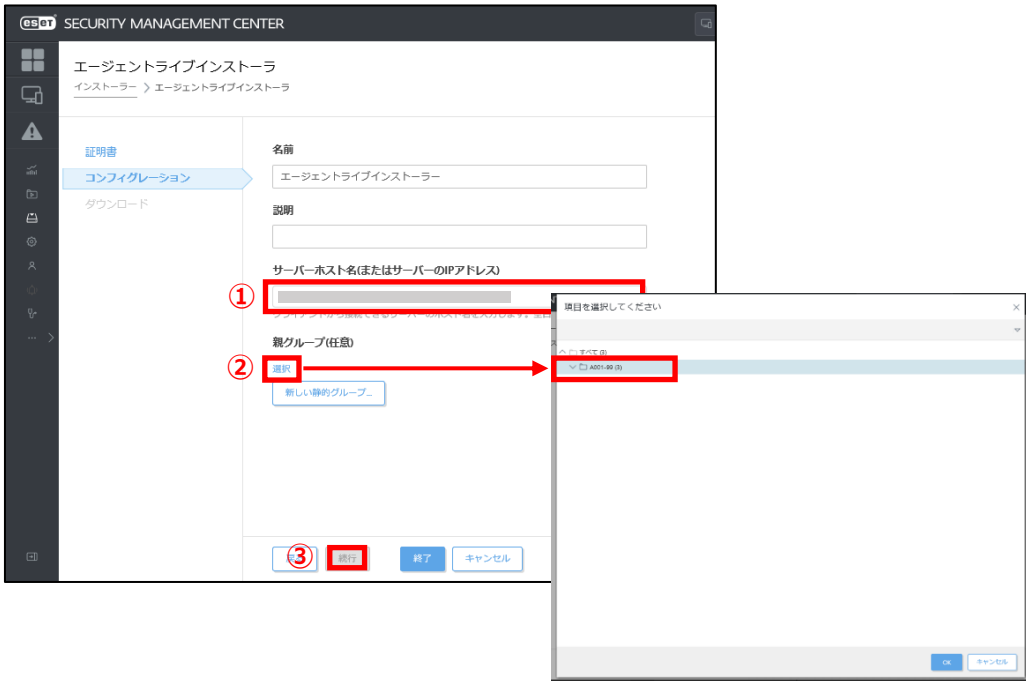
4. ①「ESMC 証明書」が選択されていることを確認します。
② ESMC 証明書に証明書が登録されていることを確認します。
③「証明書パスフレーズ」には、「**3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備**」で確認した「証明書パスフレーズ」を入力します。
④「続行」をクリックします。



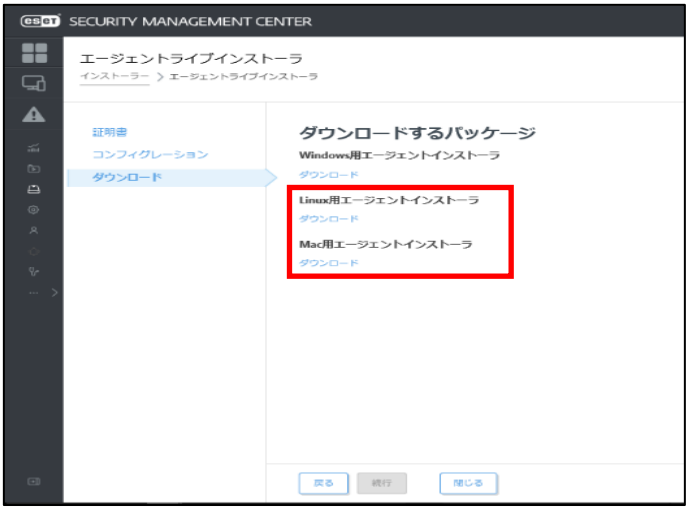
5. 名前を入力します。
※説明の入力は任意です。



6. ①「サーバーホスト名（またはサーバーの IP アドレス）」に「**3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備**」で確認した「ESMC サーバー/ERA サーバーの IP アドレス」を入力してください。
   ②「親グループ（任意）」では、[選択]をクリックし、**ご利用開始時に提供されている既定のグループを必ず選択してください。（P28 参照）**
   ③「終了」をクリックします。



7. ご利用の OS に応じて、「Linux 用エージェントインストーラ」または「Mac 用エージェントインストーラ」をダウンロードします。
   ※「ESMCAgentInstaller.tar.gz」がダウンロードされます。



ダウンロードが完了したら、各クライアントに配布し実行します。

＜事前準備＞HTTP プロキシを経由する場合【管理サーバー側作業】

各クライアントが HTTP プロキシを経由してクラウドオプション Lite の ESMC に接続する場合は、エージェントライブインストーラーにプロキシ設定を行います。

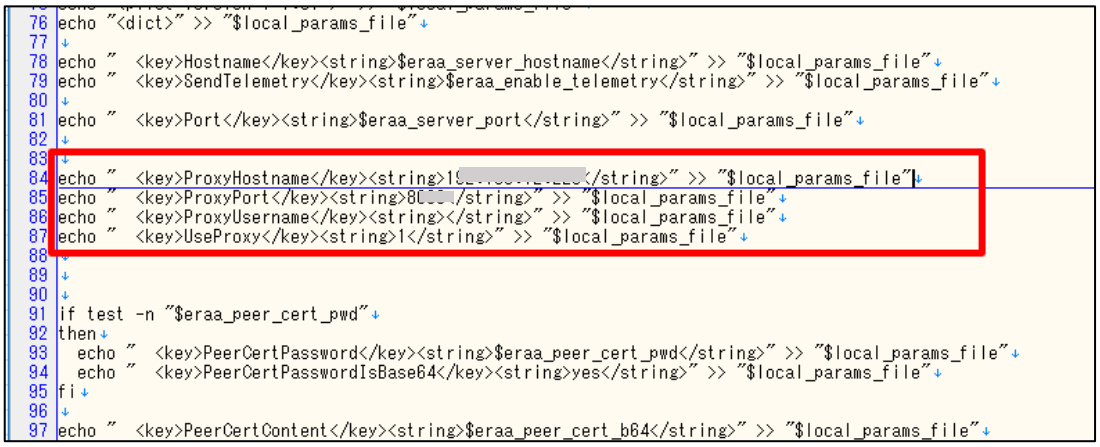
HTTP プロキシを経由しない場合は、「**B-1-3.エージェントライブインストーラーの実行**」に進んでください。

【HTTP プロキシを経由する場合、エージェントライブインストーラー変更方法】

◆Mac 用エージェントライブインストーラー

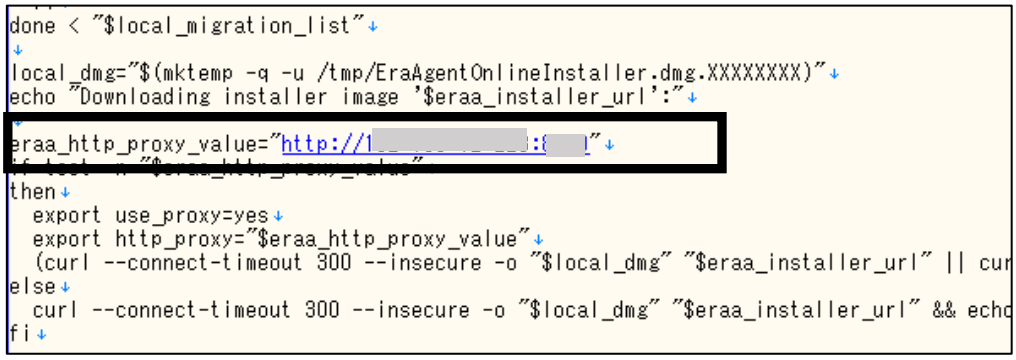
1. 「ESMCAgentInstaller.tar.gz」を展開し、ESMCAgentInstaller.sh に以下を追記します。

```
echo "  <key>ProxyHostname</key><string>プロキシサーバーの IP アドレス</string>" >> "$local_params_file"
echo "  <key>ProxyPort</key><string>プロキシサーバーのポート</string>" >> "$local_params_file"
echo "  <key>ProxyUsername</key><string></string>" >> "$local_params_file"
echo "  <key>UseProxy</key><string>1</string>" >> "$local_params_file"
```



2. さらに、以下を変更します。

```
eraa_http_proxy_value="http://プロキシサーバーの IP アドレス:ポート"
```



3. 設定を保存し、クライアントに配布します。

◆Linux 用エージェントライブインストーラー

1. 「ESMCAgentInstaller.tar.gz」を展開し、ESMCAgentInstaller.sh に以下を追記します。

```
--proxy-hostname=プロキシサーバーの IP アドレス ¥
--proxy-port=ポート ¥
```

※ ¥かバックスラッシュかはエディタによって表示が変わります。

```
export _ERAAGENT_PEER_CERT_PASSWORD="$eraa_peer_cert_pwd"

echo
echo Running installer script $local_installer
echo

$usesudo /bin/sh "$local_installer"\
   --skip-license \
   --hostname "$eraa_server_hostname"\
   --port "$eraa_server_port"\
   --proxy-hostname=1[redacted] \
   --proxy-port=8[redacted] \
   --cert-path "$local_cert_path"\
   --cert-password "env:_ERAAGENT_PEER_CERT_PASSWORD"\
   --cert-password-is-base64\
   --initial-static-group "$eraa_initial_sg_token"\
   --disable-imp-program\
   $(test -n "$local_ca_path" && echo --cert-auth-path "$local_ca_path")\
   $(test -n "$eraa_product_uuid" && echo --product-guid "$eraa_product_uuid")\
   $additional_params
```

2. さらに、以下を変更します。

```
eraa_http_proxy_value="http://プロキシサーバーの IP アドレス:ポート"
```

```
fi

local_installer="$(mktemp -q -u)"

eraa_http_proxy_value="http://1[redacted]:8[redacted]"
if test -n "$eraa_http_proxy_value"
then
  export use_proxy=yes
  export http_proxy="$eraa_http_proxy_value"
  (wget --connect-timeout 300 --no-check-certificate -O "$local_installer" "
--no-proxy --no-check-certificate -O "$local_installer" "$eraa_installer_url
"$eraa_installer_url" > "$local_installer") && echo "$local_installer" >> "$
else
```

3. 設定を保存し、クライアントに配布します。

以上で、HTTP プロキシ経由する場合のエージェントライブインストーラー変更作業は完了です。

B-1-3. エージェントライブインストーラーの実行【クライアント側作業】

エージェントライブインストーラーを各クライアント端末上で実行し、EM エージェントをインストールします。

実行手順につきましては、ユーザーズサイトからダウンロード可能な「ESET Security Management Center V7.0 ユーザーズマニュアル」の P224「エージェントライブインストーラーの実行」より、使用する OS の実行方法をご参照ください。

以上で、EM エージェントインストールは完了です。

続いて「6. クラウドオプション Lite で管理ができていることを確認」に進んでください。

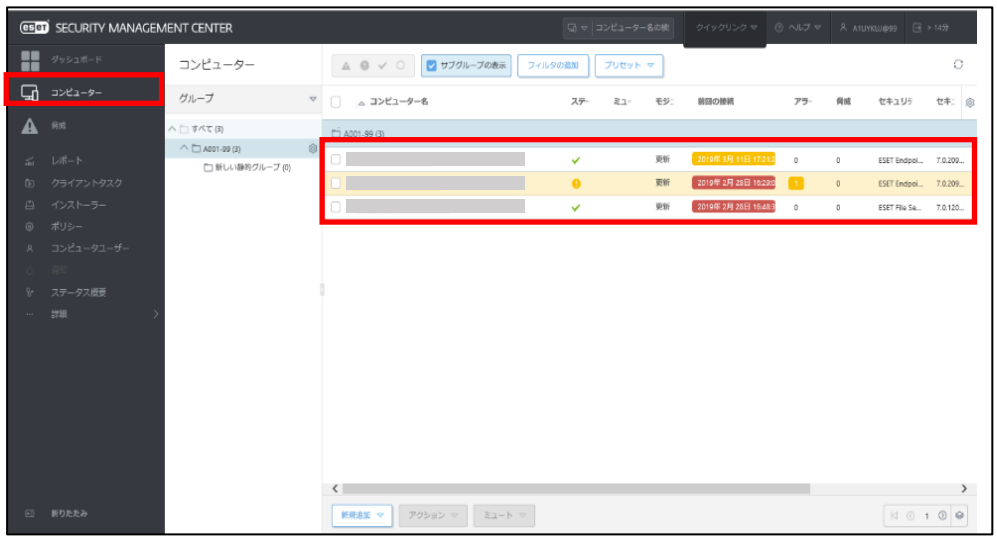
6. クラウドオプションで管理できていることを確認【管理サーバー側作業】

ESET Security Management Center でクライアント端末の管理ができていることを確認します。

以下に、クライアント管理の確認手順を記載します。

1. 「**3.6.ライセンス情報･ログイン情報の準備**」で確認した①「ESMC ログイン名」、②「ESMC ログインパスワード」を入力し、③「日本語」を選択して、④「ログイン」をクリックします。

2. 「コンピューター」のクライアントの一覧画面よりクライアントが表示されていることを確認してください。
   ※クライアント展開時に所属する静的グループを指定した場合は、そちらの各グループを選択してご確認ください。



3. 管理対象クライアント端末のステータスが黄色や赤色になっている場合、クライアント側でエラー（検出エンジンがアップデートされていない、アクティベーションされていない）が発生している可能性があります。

   詳細を確認し、ご対応ください。

コンピューター名を実際のコンピューター名に変換する場合は、「サ―バータスク」の「コンピューター名の変更」タスクをご使用ください。
タスクのご使用方法は ESET Security Management Center V7.0 ユーザーズマニュアルより、「8.14.7.8 コンピューター名の変更」をご確認ください。

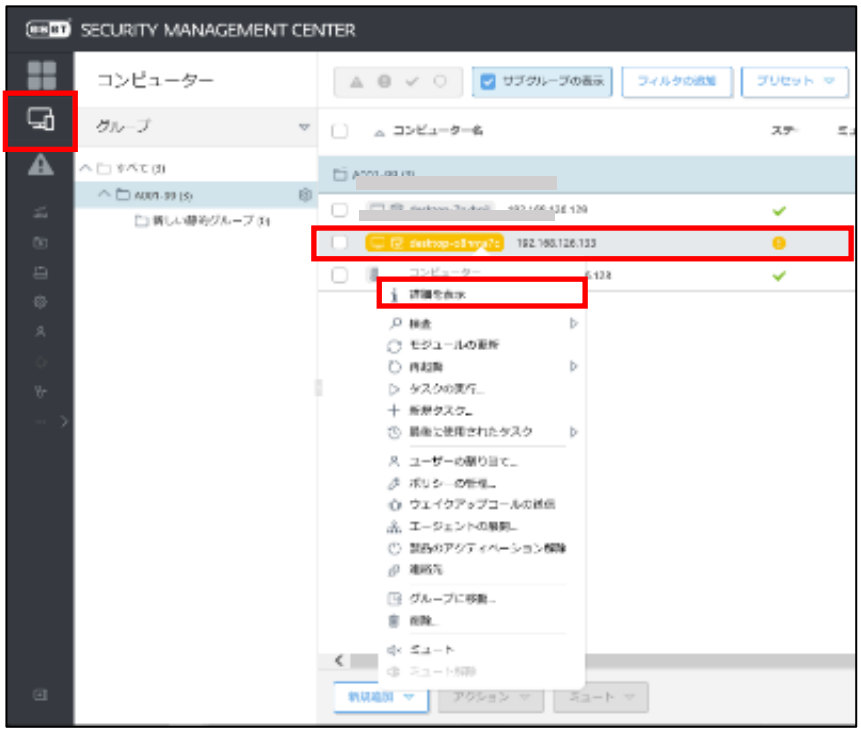
完了

以上でクラウドオプジョン Lite でのクライアント端末の管理は完了です。

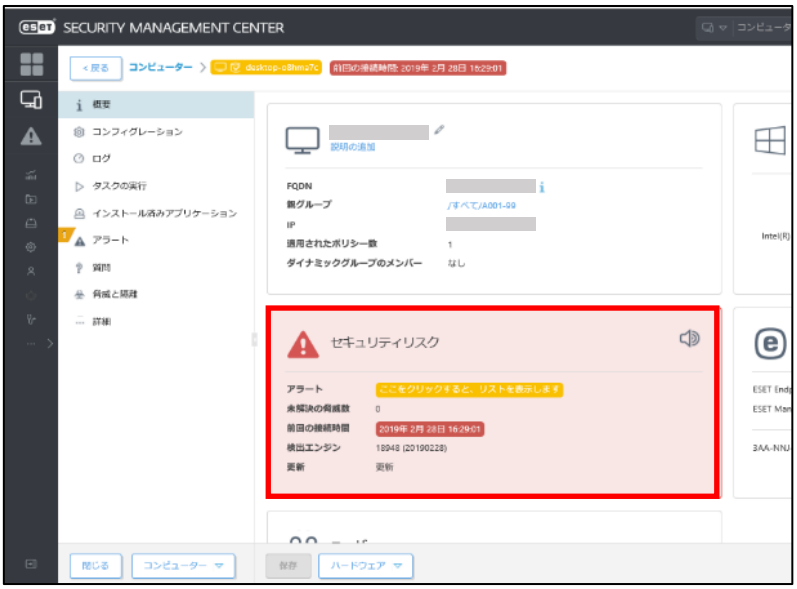
その他、ESET Security Management Center の操作方法につきましては、ESET Security Management Center V7.0 ユーザーズマニュアルを参照し、クラウドオプション Lite をご利用ください。

【参考】クライアント端末の詳細情報確認

1. 「コンピューター」の一覧より、任意のクライアントコンピューターをクリックし、メニューから「詳細を表示」を選択します。



2. 該当クライアントの詳細情報が表示されます。こちらの画面で検出エンジンのバージョン、OS 情報、ESET 設定などが確認できます。



また、ユーザーズサイトでご提供している機能説明資料なども合わせてご参照いただき、クラウドオプション Lite をご利用ください。

■ESET Endpoint Protection シリーズ ユーザーズサイト
https://canon-its.jp/product/eset/users/

※機能説明資料はユーザーズサイトの[プログラム/マニュアル] – [最新バージョンをダウンロード]の、10.製品説明資料・各種手順書より以下のファイルをダウンロードください。

・Windows / Windows Server 向けクライアント用プログラム（V7.x）機能紹介資料

・Mac 向けクライアント用プログラム（V6.x）新機能紹介資料

・Linux Desktop 向けクライアント用プログラム（V4.0）機能紹介資料

・Android 向けクライアント用プログラム（V2.x）新機能紹介資料

・Linux Server 向けクライアント用プログラム（V4.5）機能紹介資料

・ESET Security Management Center V7.x 新機能紹介資料

また、弊社 ESET サポート情報ページにて、製品機能・仕様・操作手順などの情報を公開していますので、ご利用ください。

■ESET サポート情報　法人向けサーバー・クライアント用製品
https://eset-support.canon-its.jp/?site_domain=business

ご不明な点などがございましたら、上記 Web ページをご確認いただくか、下記 Web ページより弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

■お問い合わせ窓口（サポートセンター）
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/883?site_domain=business